2025年度　授業概要

学　科　：スポーツマネジメントテクノロジー科

科目名（英）	スポーツ生理学 Exercise Physiology	必修選択	必修	年次	1	担当教員	古賀五月
						実務経験	○
		授業形態	講義	総時間（単位）	30 2	開講区分	前期
コース	コース共通					曜日・時限	木曜日・2限

【授業の学習内容】（※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する）

スポーツ生理学は運動を行うことで身体にどのような変化が生ずるのか、その現象としくみを理解する学問である。他のスポーツ系の授業の基礎とも言える。この授業を理解することによって、運動指導者としてクライアントへなぜヒトは運動をしなければならないのか、運動を行うことでどのようなことが身体の中で起こり、様々な変化を遂げていくのか科学的根拠に基づいて指導ができるようになる。

※実務経験
　インストラクター歴25年。現在、フィットネスクラブ・公共施設・サークルを立ち上げから指導と幅広く活動をしている。

【到達目標】 運動指導者に必要なスポーツ生理学の基本的な知識を修得し、科学的根拠に基づいて説明が出来る。

目標①骨格筋についての詳しい説明（構造・特徴・収縮様式など）が出来る。

目標②エネルギー供給系についての説明が出来る。

目標③骨格筋と神経系の関わりについて説明が出来る。

授業計画・内容	
1回目	オリエンテーション
2回目	（目標①）骨格筋の構造についての説明が出来る。
3回目	（目標①）筋収縮の仕組みについての説明が出来る。
4回目	（目標①）筋線維の種類とその特徴について説明が出来る。
5回目	（目標①）筋の収縮様式についての説明が出来る。
6回目	（目標①）筋力を決める要因についての説明が出来る。
7回目	中間試験
8回目	（目標②）アデノシン三リン酸についての説明が出来る。
9回目	（目標②）無酸素性機構についての説明が出来る。
10回目	（目標②）有酸素性機構についての説明が出来る。
11回目	（目標③）神経系の構造について説明が出来る。
12回目	（目標③）自律神経系について説明ができる。
13回目	（目標③）神経系の働きと役割、および運動との関連について説明が出来る。
14回目	期末試験
15回目	返却・解答解説
準備学習 時間外学習	各目標毎、およそ2～4回にわたって関連した授業になるため、予習と復習が必要です。また骨格筋やトレーニングについての話がありますので個人でトレーニングを行うことでより授業の理解度が深まります。
評価方法	2回の定期試験によって知識の到達評価を行う。（中間試験50%　期末試験50%）
受講生へのメッセージ	現場で運動指導者として働いていくために知識と技術が必要となります。特に知識は科学的根拠に基づく説明が出来るとクライアントへの説得力が上がります。 ぜひ苦手意識を持たず、積極的に取り組んでほしいと思っております。そのためにもどの授業もそうですが体調管理に気をつけ、欠席をしないようにしてください。

【使用教科書・教材・参考書】

公益財団法人 日本スポーツ協会：「リファレンスブック」

株式会社 杏林書店：「入門運動生理学」

2025年度 授業概要

学 科 ：スポーツマネジメントテクノロジー科

科目名（英）	体力測定法 Physical Fitness Test	必修選択	選択必修	年次	1	担当教員	古野 透
						実務経験	○
		授業形態	演習	総時間（単位）	30	開講区分	前期
コース	コース共通				2	曜日・時限	火曜日・2限

【授業の学習内容】（※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する）

体力測定は今も様々な現場で活用されており、アスリートだけでなく子どもから高齢者まで広く浸透している。その体力測定の意義や目的をまずは理解する。
測定方法や評価方法についても学び、最終的にはどういった方にも的確な評価がおこなえる実践力を身につける。

※実務者経験
トレーナー歴10年、小学生～実業団のチームトレーナーを中心に現在までのべ15チームを指導
また、一般の方から高齢者までスポーツクラブや公共施設でトレーニング・コンディショニングを行う。

【到達目標】

目標①：体力測定の意義を理解する
目標②：体力測定の方法と評価を理解する
目標③：的確な評価説明ができる実践力を身につける

授業計画・内容	
1回目	オリエンテーション、体力の概念を理解する
2回目	測定と評価とは何かを知る
3回目	新体力テストの成り立ち・体力水準
4回目	新体力テストの実際①
5回目	新体力テストの実際②
6回目	新体力テストの実際③
7回目	新体力テストの実際④
8回目	年代別得点表と平均をもとにした評価方法
9回目	高齢者（65～79歳）に対する新体力テストの方法と注意点①
10回目	高齢者（65～79歳）に対する新体力テストの方法と注意点②
11回目	その他高齢者に対する測定項目
12回目	体組成の見方と評価
13回目	定期試験対策
14回目	定期試験
15回目	回答用紙返却、解説
準備学習時間外学習	・授業内容の復習 ・人とのコミュニケーション能力
評価方法	・定期試験
受講生へのメッセージ	体力測定は全年代、広範囲で行われています。特に一般の方に対する測定と評価はほとんどのトレーナーが経験します。現場で活用ができるよう興味を持って取り組んでみてください。また、JATIトレーニング指導者や健康運動実践指導者などの資格対策にも関わる大切な科目であることも覚えていてください。

【使用教科書・教材・参考書】

大修館書店：「トレーニング指導者テキスト 理論編・実践編」
公益財団法人 健康・体力づくり事業財団：「健康運動実践指導者養成用テキスト」
（測定機器）握力計、柔軟性測定機器、メジャー

2025年度 授業概要

学 科 ：スポーツマネジメントテクノロジー科

科目名（英）	コンディショニング Conditioning	必修選択	必修	年次	1	担当教員	古野 透
						実務経験	○
		授業形態	演習	総時間（単位）	30	開講区分	前期
コース	コース共通				2	曜日・時限	水曜日・4限

【授業の学習内容】（※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する）

スタティックストレッチやダイナミックストレッチなど基本的な理論や実技を中心に、チームなどの団体指導やパーソナル、高齢者など幅広い年齢層に対応できるスキルを身につけていく。

※実務者経験 トレーナー歴10年、小学生～実業団のチームトレーナーを中心に現在までのべ15チームを指導
また、一般の方から高齢者までスポーツクラブや公共施設でトレーニング・コンディショニングを行う

【到達目標】

目標①各ストレッチの内容を理解し、説明することができる
目標②覚えた内容を指導することができる
目標③プログラムを組むことができる

授業計画・内容	
1回目	オリエンテーション
2回目	スタティックストレッチの理論
3回目	スタティックストレッチの演習①
4回目	スタティックストレッチの演習②
5回目	ダイナミックストレッチの理論
6回目	ダイナミックストレッチの演習①
7回目	ダイナミックストレッチの演習②
8回目	ペアストレッチの理論・演習
9回目	プログラミング作成の理論・演習①
10回目	プログラミング作成の理論・演習②
11回目	指導の理論・演習①
12回目	指導の理論・演習②
13回目	テスト対策
14回目	前期試験
15回目	答案用紙返却、解説、反省
準備学習 時間外学習	目標①授業の内容を復習する 目標②教科書を読む頻度を増やす
評価方法	50問（1問2点）出題し合計100点とする。
受講生へのメッセージ	JATIの資格は簡単に取得できるものではありません。日々、教科書を読み、授業の内容を復習するといった積み重ねが非常に大切となります。1年は長いようであっという間に経つので、早いうちに習慣づけるようにしましょう。

【使用教科書・教材・参考書】

大修館書店：「トレーニング指導者テキスト 理論編・実践編」

2025年度 授業概要

学 科 ：スポーツマネジメントテクノロジー科

科目名（英）	フィットネスエクササイズ Fitness Exercise	必修選択	必修	年次	1	担当教員	荒川優子
						実務経験	○
		授業形態	演習	総時間（単位）	30 2	開講区分	前期
コース	コース共通					曜日・時限	金曜日・3限

【授業の学習内容】（※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する）

フィットネスエクササイズとは、健康・体力づくりを目的とした運動プログラムです。内容は様々で、有酸素運動、筋抵抗運動、筋調整運動などがあります。
運動の実施やその指導においては、体に安全かつ効果的であることが望まれます。そして運動の維持・継続には楽しさが必須です。
有酸素運動ではエアロビックダンス、その他レジスタンストレーニング、ストレッチ、ピラティス等、様々なフィットネスエクササイズを体験し、自らの健康・体力づくりに取り組みます。フィットネス理論の基礎である機能的解剖学、レジスタンス等の科目と関係があります。

※実務経験：
卒後12年間フィットネス施設において運動・栄養指導を行う。現在もエアロビックダンス等のスタジオレッスンを担当。ADI・ピラティス・健康運動指導士資格保有。

【到達目標】

グループエクササイズの楽しさを感じてもらう。また、フィットネスエクササイズを体験したうえで、フィットネスエクササイズが説明できる。

【具体的目標】
目標①エアロビックダンスや、その他のフィットネスエクササイズを体験学習する
目標②フィットネスエクササイズの楽しさを得て、自らの身体づくりに役立てる
目標③フィットネスエクササイズを説明できる

授業計画・内容		
1回目	オリエンテーション、授業目的について、音に合わせて動いてみよう	目標：リズムエクササイズができる
2回目	フィットネスエクササイズ（エアロビックダンス・レジスタンス・ストレッチ）	目標：動きの種類を知ることができる
3回目	フィットネスエクササイズ（エアロビックダンス・レジスタンス・ストレッチ）	目標：動きの種類を知ることができる
4回目	フィットネスエクササイズ（エアロビックダンス・レジスタンス・ストレッチ）	目標：動きの種類を修得できる
5回目	フィットネスエクササイズ（エアロビックダンス他）、健康・体力づくり運動とは（座学）	目標：動きの種類を修得できる
6回目	フィットネスエクササイズ（エアロビックダンス他）、フィットネスエクササイズとは（座学）	目標：健康・体力づくり運動が説明できる
7回目	フィットネスエクササイズ（エアロビックダンス他）、フィットネスエクササイズとは（座学）	目標：フィットネスエクササイズが説明できる
8回目	フィットネスエクササイズ（エアロビックダンス他）	目標：エアロビックダンス動作を覚える（健康運動実践指導者用）
9回目	フィットネスエクササイズ（エアロビックダンス他）	目標：エアロビックダンス動作を修得できる（健康運動実践指導者用）
10回目	フィットネスエクササイズ（レジスタンストレーニング他）	目標：レジスタンストレーニング動作を修得できる（健康運動実践指導者用）
11回目	フィットネスエクササイズ（ストレッチ他）	目標：ストレッチの種類を知ることができる
12回目	試験対策（試験内容の説明、全体練習）	
13回目	試験対策（全体練習、グループ練習、リハーサル）	
14回目	期末試験	
15回目	期末試験のフィードバック、フィットネスエクササイズレッスン	
準備学習 時間外学習	目標①②③その都度座学で理解を深め、日常的に体調管理には充分気をつけましょう。 解剖学、レジスタンス等の授業の復習があると安全に受講することができます。 ※授業に備えてのトレーニングや練習では怪我や健康管理に充分気をつけて行いましょう。	
評価方法	実技試験…80%、レポート試験…10%、授業取り組み…10%	
受講生へのメッセージ	演習科目ですが筆記、実技とありますので、必要なものを忘れないよう注意しましょう。（授業取り組み評価に影響） まずは自身の体力づくりを図り、楽しく一緒に汗をかいて身体を動かしていきましょう。 怪我や体調管理には充分気をつけながら行ってください。	

【使用教科書・教材・参考書】

2025年度 授業概要

学 科 ：スポーツマネジメントテクノロジー科

科目名（英）	コーチング論 Instruction and Coaching	必修選択	必須	年次	1	担当教員	井口 大
						実務経験	○
		授業形態	講義	総時間（単位）	30 2	開講区分	前期
コース	コース共通					曜日・時限	水曜日・1限

【授業の学習内容】（※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する）

近年、社会構造や社会状況が年々変化し、指導者（コーチ）には多くの役割が求められるようになってきました。
そうした中で、指導者にとって最も大切な役割は何でしょうか。それは一生懸命プレーする選手や子どもたちが楽しくプレーできるようにサポートすることや、目標達成するためのサポートをする役割があります。
この授業では、リファレンスブックを基に、グッドコーチに求められる資質能力を修得する。その主な部分として、「人間力」と称する「思考・判断（スポーツの意義と価値の理解、コーチングの理念・哲学等）」と「態度・行動」に関する内容を理解し、本授業修了時にはグッドコーチに求められる資質能力の理解を得られるようになる。

※実務経験※
サッカーコーチ歴31年。福岡県サッカー協会ユースダイレクター、九州サッカー協会技術委員会4種部会長として、コーチング・トレーナーとして携わる。

【到達目標】

①コーチングの意味やコーチに求められる役割を理解する。
②対他者力・対自己力を内容を理解し磨いていく。
③スポーツの意義と価値の理解をする。
④ハイパフォーマンススポーツにおける今日的なコーチングの理解。

授業計画・内容	
1回目	コーチング論 ガイダンス （コーチのイメージ、良いコーチ像）
2回目	＜コーチングとは＞ ○コーチングとコーチを定義する ○グッドコーチを育てるグッドコーチ
3回目	○コーチングの目的としての4Cs ○プレーヤーズセンタードなコーチング
4回目	＜自己決定した行動こそ、パフォーマンスは伸びやすい＞ ○内発的動機／外発的動機（メリット、デメリット）
5回目	○コーチの制御行動がプレーヤーの成長を妨げる ○学びを促すコーチング ○プレーヤーの自律を支援するコーチング行動
6回目	○ゲーム基盤型コーチング ○コーチが果たすべき役割 ○公認スポーツ指導者とは ○スポーツ指導者として求められる心構え
7回目	○安全なスポーツ環境と構築と問題発生の対処法 ○4つのアプローチ
8回目	○コーチに求められる知識とスキル ＜対他者を磨こう＞ ○コミュニケーションスキル ○問いかけのスキル
9回目	○リーダーシップスキル ○プレゼンテーションスキル
10回目	○ファシリテーション ○メンタリング
11回目	＜対自己を磨こう＞ ○コーチの学びの場 ○省察の過程 ○コーチの成長過程 ○自己認識
12回目	○学習コミュニティ ○コーチデベロッパー ＜コーチのセルフマネジメント＞ ○心のしなやかさ ○アンガーマネジメント ○成長的マインド
13回目	○さまざまな思考伝達方 ○ハイパフォーマンスにおける今日的コーチング ○女性活躍をスポーツを通じた女性の社会進出 ＜まとめ＞
14回目	コーチング論テスト
15回目	コーチング論：振り返り
準備学習時間外学習	・リファレンスブックを一通り目を通してください。
評価方法	筆記テストを前期1回実施する。 ●筆記テスト（70%） ●授業の取り組み（30%） ※割合で成績評価を行う。
受講生へのメッセージ	リファレンスブックを基にコーチング論の講義を行います。 授業では、アクティブラーニングやファシリテーション、ワークショップなどを取り入れて、意見の共有・課題の提出、意見交換など行い学生みんなでコーチの資質能力を高めていきたいと思いますので、オープンマインドで取り組んで下さい。

【使用教科書・教材・参考書】

・公益財団法人 日本スポーツ協会：「リファレンスブック」
※スクリーン／プロジェクターを使用

2025年度　授業概要

学　科　：スポーツマネジメントテクノロジー科

科目名（英）	スポーツ医学 Sports Medicine	必修選択	必修	年次	1	担当教員	久保　智之
						実務経験	○
		授業形態	講義	総時間（単位）	30 2	開講区分	後期
コース	コース共通					曜日・時限	

【授業の学習内容】（※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する）

スポーツに携わるトレーナーの役割には、①スポーツ傷害の予防、 ②スポーツの現場での救急処置の実施、 ③スポーツ傷害の治療・リハビリテーションを含む再発・予防　の大きく3つがある。これら3つの役割を修得するため、スポーツ医学の基礎知識を理解し、本授業終了時には、スポーツ傷害のメカニズム、治療方法、リハビリテーション、予防方法が説明できるようになる。

※実務者経験
　2004年～現在まで福岡工業大学ラグビー部メディカルトレーナとして活動。主業務は選手のケア、アスレティックリハビリテーション、試合帯同。

【到達目標】

スポーツ傷害の受傷機転、症状、治療、リハビリ、予防法を理解し、説明ができる。
アスリハの基礎知識（ストレッチ、トレーニング）について理解し、説明ができる。
＜具体的な目標＞
目標①スポーツ傷害の病態、発症メカニズムを説明できる。
目標②傷害に適した評価を行い、説明することができる。
目標③傷害に適したリハビリテーションを実践できる。

授業計画・内容	
1回目	スポーツ傷害の基礎知識　（目標）外傷と障害の違いについて説明ができる。
2回目	運動器の基礎知識　（目標）神経、筋肉、骨、軟骨、腱、靭帯について説明ができる。
3回目	全身の基礎知識1　（目標）呼吸、循環、上肢の骨、下肢・骨盤の骨について説明できる。
4回目	全身の基礎知識2　（目標）頭部・脊柱の骨、上肢の筋肉、下肢の筋肉、体幹の筋肉について説明ができる。
5回目	スポーツのケガの知識1　（目標）スポーツ現場での処置、頭部外傷、脳震盪、急性硬膜下血腫について説明ができる。
6回目	スポーツのケガの知識2　（目標）顔面の外傷、頚髄損傷、椎間板ヘルニア、腰椎分離症、腰痛、頚椎捻挫ついて説明ができる。
7回目	スポーツのケガの知識3　（目標）投球障害肩、肩関節脱臼、肩鎖関節脱臼、腱板損傷、野球肘（成長期・成人）、テニス肘について説明ができる。
8回目	スポーツのケガの知識4　（目標）野肘関節脱臼、TFCC損傷、突き指、スポーツ名がついた指のケガ、股関節周辺の痛みについて説明ができる。
9回目	スポーツのケガの知識5　（目標）ACL・PCL・MCL・LCL損傷、半月板損傷、、膝のスポーツ障害について説明ができる。
10回目	スポーツのケガの知識6　（目標）足関節捻挫、アキレス腱断裂、シンスプリント、足部のスポーツ障害、骨折、疲労骨折について説明ができる。
11回目	アスリハの知識1　（目標）ストレッチ、腰痛・膝蓋靭帯損傷に対するアスリハ、上肢・下肢のケガに対するアスリハについて説明ができる。
12回目	アスリハの知識2　（目標）競技別アスリハ〔野球、バスケ、サッカー、ラグビー、陸上〕、テーピング、装具・サポーターについて説明ができる。
13回目	内科的障害と対策　（目標）栄養、女性・成長期・障害者・中高年者とスポーツ、突然死、熱中症、アンチドーピングについて説明ができる。
14回目	定期試験
15回目	テスト返却、解説
準備学習時間外学習	（目標①）骨格筋の名称、位置、起始・停止の予習が必要。 （目標②）骨の位置、名称、関節の構造の予習が必要。 （目標③）スポーツ傷害の原因、発生メカニズム、対処法について予習が必要。
評価方法	定期試験（100%）　筆記
受講生へのメッセージ	トレーナーの仕事はスポーツ選手の健康管理、スポーツ傷害・外傷の予防、応急処置、リハビリテーション、体力トレーニング、コンディショニングなど多岐にわたります。機能解剖学や運動生理学に関する専門的な知識に加え、ケガについての知識も必要になります。 スポーツの現場で必要な知識や技術を身につけ、アスリートファーストを第一に考えて選手をサポートできるトレーナーになりましょう。

【使用教科書・教材・参考書】

・公益財団法人 日本スポーツ協会：「Reference Book（リファレンスブック）」

2025年度　授業概要

学　科　：スポーツマネジメントテクノロジー科

科目名（英）	プログラムデザイン program desigh	必修選択	必修	年次	1	担当教員	鈴木　康信
						実務経験	○
		授業形態	講義	総時間（単位）	30	開講区分	後期
コース	コース共通				2	曜日・時限	

【授業の学習内容】（※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する）

特異性、過負荷、漸進性などのトレーニングの原則をふまえながらエクササイズを選択しトレーニングの量や強度をなどの負荷を決めることができるようになる。レジスタンストレーニング、プライオメトリックトレーニング、有酸素性持久力トレーニング等の各種トレーニングをクライアントやチームの特性にあわせてプログラム作成することができるようになる。また、作成したプログラムをクライアントやチーム対して適切な指導やコーチングをすることができるようになる。

※実務経験※
病院にて4年間勤務。その後、ハンドボール・ラグビーチームでのストレングス＆コンディショニングコーチとして指導に携わる

【到達目標】

科学的根拠に基づき対象や目的に応じた適切な運動プログラムを作成し、これを効果的に指導するための知識と技術をもつ専門家を育成する。目的・対象別のトレーニング計画の立案・作成・指導ができる。
＜具体的な目標＞
目標①プログラム作成に関する知識を説明できる。また、トレーニング計画を作成することができる
目標②プログラムを作成しクライアントに適切なトレーニング法を指導することができる

	授業計画・内容
1回目	オリエンテーション
2回目	プログラムデザインの基礎知識を説明することができる
3回目	レジスタンストレーニングのプログラムデザインの生理学的、バイオメカニクス的特性を説明することができる
4回目	レジスタンストレーニングのプログラムデザインの留意点を説明し作成することができる
5回目	プライオメトリックトレーニングのプログラムデザインの生理学的、バイオメカニクス的特性を説明することができる
6回目	プライオメトリックトレーニングのプログラムデザインの留意点を説明し作成することができる
7回目	スピードおよびアジリティートレーニングのプログラムデザインの生理学的、バイオメカニクス的特性を説明することができる
8回目	スピードおよびアジリティートレーニングのプログラムデザインの留意点を説明し作成することができる
9回目	パワー向上トレーニングのプログラムデザインを説明し作成することができる
10回目	有酸素性持久力トレーニングのプログラムデザインを説明し作成することができる
11回目	特別な対象のためのトレーニングのプログラムデザインを説明し作成することができる
12回目	総合的なトレーニングプログラムを説明し作成することができる
13回目	ピリオダイゼーションを説明することができる
14回目	前期評価テスト
15回目	評価とフィードバック
準備学習　時間外学習	(目標①)前提：この授業を受けるには、レジスタンストレーニングの基本知識が必要です。さらに解剖学、生理学、運動学、トレーニングについて予習が必要です。 (目標②)レジスタンストレーニングのプログラムデザインではエクササイズテクニックの知識が必要になります。 (目標③)プライオメトリクス・スピード・アジリティーのプログラムデザインではエクササイズテクニックの知識が必要になります。。
評価方法	定期テストにて知識・技能の到達評価を行う。 ●授業内評価(30%) ●定期テスト・レポート・小テスト(70%) 割合で成績評価を行う。
受講生へのメッセージ	この授業では理論的なことはもちろんレジスタンストレーニングを中心に各種トレーニングのプログラムデザインの考え方、また科学的根拠に基づいたプログラム作成を行うための基礎をつくりたいと思います。積極的に授業に取り組んでトレーナーとしての能力を高めてもらえればと思っています。

【使用教科書・教材・参考書】

大修館書店：「トレーニング指導者テキスト　理論編・実践編」
参考書：NSCAパーソナルトレーナーのための基礎知識

2025年度 授業概要

学 科 ：スポーツマネジメントテクノロジー科

科目名（英）	スポーツ心理学 Sports Psychology	必修選択	選択必修	年次	2	担当教員	河津 慶太
						実務経験	○
		授業形態	講義	総時間（単位）	30 2	開講区分	前期
コース	コース共通					曜日・時限	木曜日・3限

【授業の学習内容】（※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する）

この授業では、トレーナーとして選手を育てるために必要となる、指導の方法論（コーチング）や、日々の練習や試合における、選手たちの心理的な問題に対処するための知識や技法（メンタルマネジメント）を学んでいく。そして、習得した知識を自ら考え応用し、実践場面で選手の心理的な状態をモニタリングし、その時の選手に必要な声掛けなどを行えるようになる。

※実務経験：2013年4月～現在に至るまで、一般やプロなどに対する心理サポートを行っている。2017年4月以降は日本パラリンピック委員会の医科学情報サポートスタッフとして、パラリンピック日本代表選手への心理サポートを行っている。2024年度パリパラリンピック帯同（村外スタッフ）。

【到達目標】

スポーツ活動継続のための動機づけについての知識や、実力発揮のための基礎的なメンタルマネジメントの知識を学ぶ。目標設定や、自分の注意集中状態をモニタリングする実習などを行う。

＜具体的な目標＞
目標① 動機づけに関する理論、技法（自己決定理論、目標設定理論など）を説明できる
目標② 試合中の実力発揮ための理論や技法（注意集中、リラクセーション、イメージなど）を説明できる

授業計画・内容	
1回目	授業のガイダンス
2回目	目標① 動機づけの理論的な背景（自己決定理論など）
3回目	伝えるスキル向上ワーク
4回目	目標① 人間の欲求，目標設定について
5回目	目標① スポーツにおける動機づけ　動機づけを高める方法論
6回目	目標① スポーツにおける動機づけ　動機づけを高める方法論2
7回目	小テスト
8回目	目標② 実力発揮のためのメンタルマネジメント　タスクフォーカス解説
9回目	目標② 実力発揮のためのメンタルマネジメント　タスクフォーカストレーニング
10回目	目標② 実力発揮のためのメンタルマネジメント　リラクセーションとサイキングアップ
11回目	目標② 実力発揮のための心理的コンディショニング
12回目	これまでのまとめ、質疑応答　小テスト
13回目	期末課題
14回目	期末試験
15回目	試験返却・評価
準備学習時間外学習	目標①②について、この授業に関しては事例を検討していく作業が多くありますので、それぞれの授業内容に関連する自身の事例をある程度イメージしてもらいたいので、高校時代の自分のスポーツ活動に関して思い出しておいてほしいです。 また、難解な理論等については動画教材を用意していますので、各自復習などに活用すると内容の理解が進むと思います。
評価方法	○小テスト2回（30%） ○期末課題（30%） ○期末テスト（40%）
受講生へのメッセージ	指導者やコーチにとって、資格試験においてはそれほど重要視されない（点数の比重が軽い）分野ではありますが、実際の現場では必ずと言っていいほどぶつかる問題です。自分自身で対処できる場合と、専門家にお願いしたほうが良い場合がありますので、最低でもその見極めをしないと選手のためになりません。 授業中に課題を設けるときが2回ありますのでその時はできるだけ休まないようにしてください。

【使用教科書・教材・参考書】

公益財団法人 日本スポーツ協会：「リファレンスブック」

2025年度　授業概要

学　科　：スポーツマネジメントテクノロジー科

科目名（英）	スポーツ栄養学 Sports Nutrition	必修選択	選択必修	年次	2	担当教員	吉村　俊亮
						実務経験	○
		授業形態	講義	総時間（単位）	30 2	開講区分	前期
コース	コース共通					曜日・時限	月曜日3限、水曜日1限

【授業の学習内容】（※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する）

スポーツ選手にとって食事とは、一日の中の数少ない楽しみの一つである。しかし、スポーツ選手にとっての食事は、減量や増量、早期の疲労回復、パフォーマンスアップなどにも親密に関わってくる。スポーツ選手がより良い成果を上げられるように、栄養についての基礎知識を学び、人体やトレーニングとの関連などの応用についても考えられるように土台を築いていく。

実務経験
2012年2月～2019年12月Personal Body Management株式会社、2020年1月～現在 株式会社AND-U代表取締役、日本および海外（ドイツ・トルコ・スペイン・アメリカ・イギリス）で一般の方やアスリートのコンディショニングにおけるトレーニング・栄養サポートを行う

【到達目標】

・五大栄養素について説明できる
・エネルギー機構について説明できる

授業計画・内容	
1回目	栄養の概念について説明ができる
2回目	（目標①）消化吸収の過程と栄養素の体内動態について説明ができる
3回目	（目標①）糖質の種類と消化吸収について説明ができる
4回目	（目標②）糖質の代謝系について説明ができる
5回目	（目標②）アミノ酸の種類と代謝系について説明ができる
6回目	（目標②）たんぱく質の栄養について説明ができる
7回目	（目標②）脂質の栄養について説明ができる
8回目	（目標②）脂質の種類と代謝系について説明ができる
9回目	（目標②）エネルギー代謝について説明ができる
10回目	（目標③）脂溶性ビタミンの栄養について説明ができる
11回目	（目標③）水溶性ビタミンの栄養について説明ができる
12回目	（目標③）ミネラル（Ⅰ群）の栄養について説明ができる
13回目	（目標③）ミネラルの栄養（Ⅱ群）について説明ができる
14回目	定期試験
15回目	まとめ
準備学習 時間外学習	（目標①）栄養素の消化吸収の仕組みについて復習が必要です （目標②）三大栄養素の働きについて復習が必要です （目標③）微量栄養素について復習が必要です
評価方法	試験　70点（中間50点＋期末50点＝100点×0．7） 授業態度　15点（減点方式、1講義につき－1点） 出席点　15点（1講義につき1点） 計　100点
受講生へのメッセージ	勉強は暗記する学生が多いですが、暗記すると時間の経過とともに忘れてしまいます。 暗記ではなく、理解することに努めて、一緒に勉強を楽しんでいきましょう。

【使用教科書・教材・参考書】

公益財団法人 日本スポーツ協会：「リファレンスブック」

2025年度 授業概要

学 科 ：スポーツマネジメントテクノロジー科

科目名（英）	健康管理概論 Health Care Theory	必修選択	選択必修	年次	2	担当教員	市丸 直人
						実務経験	○
		授業形態	講義	総時間（単位）	30 2	開講区分	前期
コース	コース共通					曜日・時限	木曜日・2限

【授業の学習内容】（※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する）

中高年者や高齢者を対象とした運動指導の場合、生活習慣病の理解は不可欠である。生活習慣病の病態とその予防法に関する知識を系統立てて理解し、個々の健康状態に応じて対処できる運動指導者となれるよう質の向上を図る。健康確認票などを通して、自身の生活習慣についての関心を高めるとともに、一方通行にならないように心がけ、運動指導現場での実例をもとに講義する。

※実務経験※
大学での教鞭の傍ら、大学野球部へのトレーニング指導を中心に指導者として活動、多種競技（バスケットボールやバレーボールなど）への指導に携わる

【到達目標】

生活習慣と疾患との関連を理解し、生活習慣病患者やその予備群に対して、その危険性を回避した適切な運動指導ができる。

授業計画・内容	
1回目	オリエンテーション、健康管理ノートの付け方、健康・体力の定義や高齢化社会について説明できるようにする。
2回目	生活習慣病1、高血圧症、高血圧　血圧の意味、正常値と異常値、高血圧のタイプについて説明できるようにする。
3回目	生活習慣病2、糖尿病、2種類の糖尿病について説明できるようにする。
4回目	生活習慣病3、メタボリック・シンドロームについて説明できるようにする。
5回目	メンタルヘルスと心の病気について説明できるようにする。
6回目	生活習慣病などの運動療法1、健康・体力についての復習と総括、運動との関連について説明できるようにする。
7回目	生活習慣病などの運動療法2、有酸素運動との関連について説明できるようにする。
8回目	生活習慣病などの運動療法3、ウォーキングなどの軽い有酸素運動との関連について説明できるようにする。
9回目	生活習慣病などの運動療法4、筋力トレーニングなど比較的強い強度の運動との関連について説明できるようにする。
10回目	生活習慣病などの運動療法5、SAQトレーニングなどの俊敏な運動との関連について説明できるようにする。
11回目	生活習慣病などの運動療法6、1RMなど最大筋力に近い運動との関連について説明できるようにする。
12回目	生活習慣病などの運動療法7、柔軟性などの運動との関連について説明できるようにする。
13回目	これまでの復習を行なう。
14回目	試験を行なう。
15回目	試験を返却し、答え合わせを行う。授業のまとめを行なう。
準備学習時間外学習	健康管理ノートへの記録を通して自身の生活習慣に対する関心を深める。
評価方法	筆記試験（70%）、授業内演習評価（15%）、健康ノート（15%）
受講生へのメッセージ	毎週欠かさず健康ノートの記入をし、自分自身の日常生活を見直しましょう。

【使用教科書・教材・参考書】

公益財団法人 健康・体力づくり事業財団：「健康運動実践指導者養成用テキスト」
SISビジョン株式会社：「健康生活と運動」
授業担当者（市丸）が作成した資料等

2025年度 授業概要

学 科 ：スポーツマネジメントテクノロジー科

科目名（英）	スポーツ社会学 Sport Sociology	必修選択	選択必修	年次	4	担当教員	深田 忠徳
						実務経験	○
		授業形態	講義	総時間（単位）	30 2	開講区分	後期
コース	コース共通					曜日・時限	

【授業の学習内容】（※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する）

本授業では、多様化するスポーツの現状と課題について、社会学的観点から学ぶ。スポーツが政治、経済、文化、教育などといった社会的要素の中でどのように発展してきたのかを理解し、社会を映し出す鏡として位置づけられるスポーツについて深く理解する能力を獲得する。また、現代スポーツの多様化（するスポーツ、みるスポーツ、ささえるスポーツ、しるスポーツなど）によって、今後のスポーツの発展に影響を及ぼす事象について多角的に読み解く必要性があることから、これらの内容を記述、説明、分析できる能力を養う。

※実務経験：高校サッカー、ユース世代の技術指導からゲーム分析、戦術指導など多岐にわたって携わる。
合わせて、大学にて健康学、体育・スポーツ社会学、スポーツ科学演習などを担当する。

【到達目標】

1）スポーツを社会学的観点から理解することができる。
2）社会におけるスポーツの価値や意義について具体的に述べることができる。
3）スポーツに関する諸事象に関心を持ち、自己の考えを表現することができる。

授業計画・内容	
1回目	オリエンテーション：スポーツ社会学という学問領域
2回目	文化としてのスポーツ：スポーツは何か？
3回目	「体育」と「スポーツ」：日本人のスポーツ観
4回目	企業スポーツと社会関係
5回目	企業スポーツの変遷：Jリーグの誕生
6回目	わが国のスポーツ政策/総合型地域スポーツクラブ/スポーツ組織
7回目	総合型地域スポーツクラブの意義について（運動部活動の問題をふまえて）
8回目	前半のまとめ、中間試験
9回目	オリンピックの歴史と組織
10回目	オリンピックの商業化
11回目	スポーツマン・ウーマンシップとフェアプレー
12回目	スポーツのグローバル化が意味するもの
13回目	「スポーツマンガ」が社会に及ぼす影響
14回目	後半のまとめ、期末試験
15回目	総括
準備学習 時間外学習	1）体育の歴史について調べる。 2）スポーツに力を入れている企業を調査する。 3）Jリーグの「百年構想」について理解する。 4）スポーツ振興法・スポーツ基本法について調べる。 5）部活動を取り巻く問題点について自身の考えをまとめておく。 6）オリンピックの歴史やロサンゼルスオリンピックの運営方法について調べる。 7）人気のあるスポーツマンガの特長について調べる。 8）フェアプレーの具体例について説明できるようにしておく。 9）海外で活躍している日本人選手について調べる。 10）事後学習として、毎回の授業内容についてまとめておく。
評価方法	小テスト・ミニッツペーパー：60% 中間試験：20% 期末試験：20%
受講生へのメッセージ	授業内容の理解を深めるために「小テスト」「ミニッツペーパー」を実施いたします。また、授業ではグループディスカッションも実施いたしますので、積極的に参加してください。なお、シラバスはクラスの状況、講義の進行状況によって変更することがあるので、その旨を理解して履修してください。

【使用教科書・教材・参考書】

公益財団法人 日本スポーツ協会：「リファレンスブック」
その他、適宜、プリントを配布いたします。

2025年度 授業概要

学 科 ：スポーツマネジメントテクノロジー科

科目名（英）	ゲーム分析 Game Analysis	必修選択	選択必修	年次	1	担当教員	吉満 寛
						実務経験	○
		授業形態	演習	総時間（単位）	30 2	開講区分	前期
コース	プロスポーツAIトレーナー					曜日・時限	水曜日・2限

【授業の学習内容】（※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する）

GAME分析の歴史や歩みを知り、sportsanalystが使用する最新機器やソフトについて学び、また日本を代表するデータ分析会社やアナリストなどを業界について理解する。本講義の最終目標としては、GPS計測ができ、スタッツを編集し、分析を通して数値から読み解けるものを、1つでも修得できるようになる。 Analystとは何かについて、自身で説明ができるようになる。

実務経験：2020年10月から現在に至るまで、東福岡ラグビー部でGPS計測とデータ分析を担当する。

【到達目標】

1. 分析の歴史と歩みを知る。
2. 最新の機器、アナライズの動向を理解する。
3. KNOW（GPS）の計測ができる
4. 分析を繰り返し実践し、経験値を積む
5. アナライズとは何かを説明できるようになる。

授業計画・内容	
1回目	GPS使用方法
2回目	GPS脱着とリアルタイム画面での計測方法
3回目	リアルタイムでのデータ活用について
4回目	GPSトラッキングについて
5回目	CSVデータのデータ集計
6回目	CSVデータのデータ集計
7回目	集計データの分析、グラフ作成
8回目	データ取得～統計タブ確認～基本データ分析
9回目	スポーツ×データ可能性①
10回目	データ分析実践①
11回目	データ分析実践①
12回目	プレゼン
13回目	スポーツ×データ可能性②
14回目	テスト
15回目	フィードバック
準備学習時間外学習	前回の学びに関しての復習、現場での経験を授業に活かしていきましょう。
評価方法	レポート提出 100%
受講生へのメッセージ	現場活動に積極的に参加していきましょう。

【使用教科書・教材・参考書】

学校にある機材を使用します。必要に応じて、講義資料配布。

2025年度　授業概要

学　科　：スポーツマネジメントテクノロジー

科目名（英）	コーチング Coaching	必修選択	選択必修	年次	1	担当教員	井口　大
						実務経験	○
		授業形態	演習	総時間（単位）	30 2	開講区分	後期
コース	コース共通					曜日・時限	

【授業の学習内容】（※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する）

近年、社会構造や社会状況が年々変化し、指導者（コーチ）には多くの役割が求められるようになってきました。
そうした中で、指導者にとって最も大切な役割は何でしょうか。それは一生懸命プレーする選手や子どもたちが楽しくプレーできるようにサポートすることや、目標達成するためのサポートをする役割があります。この授業では、日本サッカー協会公認D級ライセンス／C級ライセンスの内容をベースに授業をおこない、指導者としての基礎学ぶ。

※実務経験※
サッカーコーチ歴31年。福岡県サッカー協会ユースダイレクター、九州サッカー協会技術委員会4種部会長として、コーチング・トレーナーとして携わる

【到達目標】

コーチが持たなければならない技術と知識の中で「コーチング」を講義と実技の中で修得する。特に指導実践では、「コーチとしての立ち振る舞い」や「いつミスが起こり」、「そのミスをどう改善するのか」など、選手たちを成長させる技術・知識を含めた授業を行う。
＜具体的な目標＞
・テーマに合ったメニューの作成（誰が見ても分かりやすい指導案の作成）
・ルールを簡潔に説明できる。　・自分が作った練習メニューの意図　・いつミスが起こり、そのミスをどうやって改善するのか。
・狙いが明確に言える。　・デモンストレーションを効果的に活用できる。　・選手を鼓舞しながら活気あるトレーニングとなっているか。

授業計画・内容	
1回目	コーチング法 後期ガイダンス：前期の振り返りと後期の流れ
2回目	実技テーマ：動きながらのテクニック／パス＆コントロール（さまざまなパス＆コントロール）
3回目	実技テーマ：ゴールを奪う（シュートドリル）
4回目	実技テーマ：ボールを奪う（1 対 1 ・ 2 対 1 ・ 3 対 2 ・ 複数 対 複数）
5回目	実技テーマ：ゴールを目指す
6回目	実技テーマの振り返り ・ 後期 指導実践ガイダンス／指導案の作成
7回目	後期 指導実践（テスト：3名）
8回目	後期 指導実践（テスト：3名）
9回目	後期 指導実践（テスト：3名）
10回目	後期 指導実践（テスト：3名）
11回目	後期 指導実践（テスト：3名）
12回目	後期 指導実践（テスト：2名）
13回目	指導実践予備日
14回目	後期 指導実践（振り返り）
15回目	後期　総評
準備学習 時間外学習	・可能であれば、Jリーグや海外リーグ、日本代表戦などを観てサッカーに触れてほしい。 ・さまざまなスポーツを直接会場に足を運んで、試合、ウォーミングアップなど現場の雰囲気や活動を見てほしい。
評価方法	テストは、指導実践（実技）を行い評価する。 ○実技指導案の作成（5%） ○指導実践（70%） ○授業への取り組み（25%）
受講生への メッセージ	・実技が主な為、体調を整えて出席すること。 欠席者が多いとトレーニングメニューの変更や指導実践に支障をきたす場合があるので、欠席しないように気を付けてください。 ・D級コーチ,C級コーチライセンスの内容を受け指導実践など経験することで、選手へ伝える楽しさや難しさを肌で感じ、この経験は様々な競技や社会に役に立てる内容と思います。是非積極的に取り組んでほしい。

【使用教科書・教材・参考書】

実技の場合：サッカーボール・マーカーコーン・ゼッケン
講義の場合：プロジェクター

2025年度　授業概要

学　科　：スポーツマネジメントテクノロジー科

科目名（英）	コーチング Coaching	必修選択	選択必修	年次	1	担当教員	井口　大
						実務経験	○
		授業形態	演習	総時間（単位）	30 2	開講区分	後期
コース	コース共通					曜日・時限	

【授業の学習内容】（※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する）

近年、社会構造や社会状況が年々変化し、指導者（コーチ）には多くの役割が求められるようになってきました。
そうした中で、指導者にとって最も大切な役割は何でしょうか。それは一生懸命プレーする選手や子どもたちが楽しくプレーできるようにサポートすることや、目標達成するためのサポートをする役割があります。この授業では、日本サッカー協会公認D級ライセンス／C級ライセンスの内容をベースに授業をおこない、指導者としての基礎学ぶ。

※実務経験※
　サッカーコーチ歴31年。福岡県サッカー協会ユースダイレクター、九州サッカー協会技術委員会4種部会長として、コーチング・トレーナーとして携わる。

【到達目標】

コーチが持たなければならない技術と知識の中で「コーチング」を講義と実技の中で修得する。特に指導実践では、「コーチとしての立ち振る舞い」や「いつミスが起こり」、「そのミスをどう改善するのか」など、選手たちを成長させる技術・知識を含めた授業を行う。
＜具体的な目標＞
・テーマに合ったメニューの作成（誰が見ても分かりやすい指導案の作成）
・ルールを簡潔に説明できる。　・自分が作った練習メニューの意図　・いつミスが起こり、そのミスをどうやって改善するのか。
・狙いが明確に言える。　・デモンストレーションを効果的に活用できる。　・選手を鼓舞しながら活気あるトレーニングとなっているか。

授業計画・内容	
1回目	コーチング法 後期ガイダンス：前期の振り返りと後期の流れ
2回目	実技テーマ：動きながらのテクニック／パス＆コントロール（さまざまなパス＆コントロール）
3回目	実技テーマ：ゴールを奪う（シュートドリル）
4回目	実技テーマ：ボールを奪う（1 対 1 ・ 2 対 1 ・ 3 対 2 ・ 複数 対 複数）
5回目	実技テーマ：ゴールを目指す
6回目	実技テーマの振り返り ・ 後期 指導実践ガイダンス／指導案の作成
7回目	後期 指導実践（テスト：3名）
8回目	後期 指導実践（テスト：3名）
9回目	後期 指導実践（テスト：3名）
10回目	後期 指導実践（テスト：3名）
11回目	後期 指導実践（テスト：3名）
12回目	後期 指導実践（テスト：2名）
13回目	指導実践予備日
14回目	後期 指導実践（振り返り）
15回目	後期　総評
準備学習 時間外学習	・可能であれば、Jリーグや海外リーグ、日本代表戦などを観てサッカーに触れてほしい。 ・さまざまなスポーツを直接会場に足を運んで、試合、ウォーミングアップなど現場の雰囲気や活動を見てほしい。
評価方法	テストは、指導実践（実技）を行い評価する。 ○実技指導案の作成（5%） ○指導実践（70%） ○授業への取り組み（25%）
受講生への メッセージ	・実技が主な為、体調を整えて出席すること。 欠席者が多いとトレーニングメニューの変更や指導実践に支障をきたす場合があるので、欠席しないように気を付けてください。 ・D級コーチ,C級コーチライセンスの内容を受け指導実践など経験することで、選手へ伝える楽しさや難しさを肌で感じ、この経験は様々な競技や社会に役に立てる内容と思います。是非積極的に取り組んでほしい。

【使用教科書・教材・参考書】

実技の場合：サッカーボール・マーカーコーン・ゼッケン
講義の場合：プロジェクター

2025年度 授業概要

学 科 ：スポーツマネジメントテクノロジー科

科目名（英）	ボディケア Body Care Technique	必修選択	必修	年次	1	担当教員	久保 智之
						実務経験	○
		授業形態	演習	総時間（単位）	30 2	開講区分	前期
コース	コース共通					曜日・時限	金曜日2限

【授業の学習内容】（※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する）

ボディケアは、スポーツでのピークパフォーマンス発揮に作用するフィジカルコンディショニングの1つである。トレーニングと同じだけリカバリーが必要になる。
スポーツ選手に関わるトレーナーにとって、ボディケアは必須の技術であり、効果のあるテクニックを習得しなければならない。機能的解剖学で学習した筋骨格をイメージしながら、スポーツマッサージ、ストレッチを中心に実習を行う。また、スポーツ傷害のメカニズムを理解し、本授業終了時には、ボディケアの目的、方法、効果が説明できるようになる。
※実務者経験：2004年～現在まで福岡工業大学ラグビー部メディカルトレーナとして活動。
主業務は選手のボディケア、アスレティックリハビリテーション、試合帯同。

【到達目標】

スポーツマッサージ、ストレッチを行うための基本的な知識と方法を修得する。スポーツマッサージの効果、目的、禁忌を理解し、リカバリーとして行うスポーツマッサージ、ストレッチの実習を行う。
＜具体的な目標＞
①スポーツマッサージ、ストレッチの基本手技の効果、方法が説明できる。
②スポーツマッサージの基本手技（軽擦法、強擦法、揉捏法、圧迫法、叩打法、震戦法）を行える。
③部位別のスポーツマッサージ、ストレッチを行える。

授業計画・内容	
1回目	コンディショニングとは　（目標）コンディションの構成要素、コンディショニングの方法について説明ができる。
2回目	スポーツマッサージの基礎知識　（目標）スポーツマッサージの効果、目的、禁忌について説明ができる。
3回目	スポーツマッサージの基本手技1　（目標）スポーツマッサージの基本手技の効果、方法が説明できる。
4回目	スポーツマッサージの基本手技2　（目標）スポーツマッサージの基本手技の実習を行う。
5回目	頭部、頸部のマッサージ　（目標）頭部、頸部のスポーツマッサージの実習を行う。
6回目	肩のマッサージ　（目標）肩関節のスポーツマッサージ、モビライゼーションの実習を行う。
7回目	腰背部のマッサージ　（目標）腰背部のスポーツマッサージ、脊柱モビライゼーションの実習を行う。
8回目	殿部、大腿部のマッサージ　（目標）殿部、大腿部のスポーツマッサージ、股関節モビライゼーションの実習を行う。
9回目	下腿部、足部のマッサージ　（目標）下腿部、足部のスポーツマッサージ、膝・足関節、足部モビライゼーションの実習を行う。
10回目	上腕部、前腕部、手部のマッサージ　（目標）上腕、前腕、手部のスポーツマッサージ、肘・手関節、手部モビライゼーションの実習を行う。
11回目	症状別スポーツマッサージ　（目標）腰痛、膝痛、肘痛の対応を説明できる。
12回目	セルフマッサージ　（目標）自分自身で体のコンディションがチェックできる。
13回目	セルフストレッチ、パートナーストレッチ　（目標）ストレッチの実習を行う。
14回目	前期テスト
15回目	テスト返却、解説
準備学習 時間外学習	①骨格筋の名称、位置、起始・停止の予習が必要。 ②骨の位置、名称、関節の構造の予習が必要。 ③スポーツ傷害の原因、発生メカニズム、対処法について予習が必要。
評価方法	定期テスト（100%）　筆記
受講生への メッセージ	トップアスリートになるほど身体のメンテナンスには敏感になっており、コンディショニングはトレーニング、栄養補給と同じくらい重要なものに位置付けられています。スポーツマッサージは、ピークパフォーマンスに作用するだけでなく、疲労回復、ケガの予防など多くの効果があります。スポーツ現場では絶対に必要な技術です。 機能的解剖学、スポーツ医学の内容も含めた授業を行います。

【使用教科書・教材・参考書】

ぜんぶわかる筋肉の名前としくみ事典
ぜんぶわかる骨の名前としくみ事典
講義資料を配布

2025年度 授業概要

学 科 ：スポーツマネジメントテクノロジー科

科目名（英）	レジスタンス Resistance Traininng	必修選択	必修	年次	1	担当教員	内田 真平
						実務経験	○
		授業形態	演習	総時間（単位）	30 2	開講区分	前期
コース	プロスポーツAIトレーナー					曜日・時限	月曜日・2限

【授業の学習内容】（※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する）

1年を通じて運動指導者に必要なレジスタンストレーニングのフォーム習得、指導力アップを目指す。前期は主にBIG3（ベンチプレス、デッドリフト、スクワット）のフォーム習得を目指す。演習はただやり方を覚えるのではなく、機能解剖学や運動生理学に基づいた裏付けや身体の仕組みを理解した上で実施する。基本的に2～3人のグループワークやロールプレイングを行ない、運動指導者に必要な基礎も学んでいく。毎回の演習を通じて現場で生かせる様々な理論やテクニックも含わせて紹介するので、安全で効果的なフォームを身につけ、対象部位へ的確に負荷をかけられるようになって欲しい。

実務経験：2005年より市内のフィットネスクラブにて運動指導を開始。パーソナルトレーナーとして10年のフリーランス活動を経て、2018年に「Fitness Support arcs」をオープン。20代から80代の様々な目的を持ったクライアントにマンツーマンで運動指導を行っている。

【到達目標】

レジスタンストレーニングの指導に必要な基礎種目、BIG3を中心としたフォーム習得、そして指導力の向上を目指す。
＜具体的な目標＞
①機能解剖学に基づいた正しいトレーニングフォームでの実演ができるようになる
②エクササイズを機能解剖学的に説明できるようになる

授業計画・内容	
1回目	オリエンテーシ：自己紹介、授業の進め方、マシンの使い方、評価方法
2回目	（目標）スクワットをやってみる／トレーニングの原理原則を理解する／下肢の筋肉を学ぶ①
3回目	（目標）デッドリフトをやってみる／トレーニングの原理原則を理解する／下肢の筋肉を学ぶ②
4回目	（目標）ベンチプレスをやってみる／プログラムの基礎を理解する
5回目	（目標）8RMを設定できる／種目の分類を理解できる
6回目	（目標）6RMを設定できる／筋活動様式の種類とその活用が理解できる／筋の作用を学ぶ
7回目	（目標）5RMを設定できる／動作速度の重要性が理解できる
8回目	（目標）4RMを設定できる／代償動作に伴う危険について理解できる／上肢の筋肉を学ぶ①
9回目	（目標）3RMを設定できる／相手に合わせた補助ができる／上肢の筋肉を学ぶ②
10回目	（目標）基礎種目の演習
11回目	試験対策：（目標）BIG3がバーベルでデモンストレーションできる
12回目	基礎種目の演習、3RM測定 （目標）換算表が活用できる
13回目	前期試験
14回目	前期試験
15回目	総評
準備学習 時間外学習	・自主演習 ・機能解剖学の予習・復習
評価方法	・授業参加率 10% ・中間試験 30% ・期末試験（BIG3のデモンストレーション） 60%
受講生へのメッセージ	レジスタンストレーニングの指導は運動指導者にとって必須です。競技スポーツの現場だけでなく、リハビリなどの医療の現場やフィットネス・セルフコンディショニングなど、様々な場面で必要になってきます。知識・指導力を身につけることで身近な人の役に立てる機会もあるでしょう。実践し理解が深まることで可能性は無限に広がり、様々な職域で「付加価値」になります。演習を通じて身体の変化を体感し、指導に必要な基礎を身につけましょう。

【使用教科書・教材・参考書】

成美堂出版：「ぜんぶわかる 筋肉の名前としくみ辞典」
大修館書店：「JATIトレーニング指導者テキスト 実践編」

2025年度 授業概要

学 科 ：スポーツマネジメントテクノロジー科

科目名（英）	機能的解剖学 Functional Anatomy	必修選択	選択必修	年次	1	担当教員	福田 智
						実務経験	○
		授業形態	講義	総時間（単位）	30 2	開講区分	前期
コース	コース共通					曜日・時限	水曜日・3限

【授業の学習内容】 ※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する

機能的解剖学は解剖学と運動学を中心とした授業となる。
運動指導をするうえで解剖学と運動学は基本となる教科となる。
解剖学では筋肉・腱・骨・関節を把握し、運動学では日常生活・スポーツ場面での動作・姿勢の説明ができるようになる。

＊実務者経験：医療の臨床現場で27年間、理学療法をする。
手術見学、医師とのカンファレンスにて機能的解剖学を学ぶ。

【到達目標】

目標①全身の筋肉、腱、骨、関節などの名称や部位を説明できる。
目標②筋肉の働きを日常生活・スポーツ場面で説明ができる。

	授業計画・内容
1回目	筋肉と骨との役割が説明できる
2回目	（目標①②）足周囲の解剖と運動について説明できる
3回目	（目標①②）膝周囲の解剖と運動について説明できる
4回目	（目標①②）股周囲の解剖と運動について説明できる
5回目	（目標①②）骨盤帯の解剖と運動について説明できる
6回目	（目標①②）肩甲帯の解剖と運動について説明できる
7回目	（目標①②）肩周囲の解剖と運動について説明できる
8回目	（目標①②）肘周囲の解剖と運動について説明できる
9回目	（目標①②）手周囲の解剖と運動について説明できる
10回目	（目標①②）体幹前面の解剖と運動について説明できる
11回目	（目標①②）体幹後面の解剖と運動について説明できる
12回目	（目標①②）頚部の解剖と運動について説明できる
13回目	まとめ 全身の解剖と運動について説明できる
14回目	筆記試験
15回目	試験解説
準備学習時間外学習	主な骨・筋肉の解剖学と、動作・姿勢に繋がる運動学について予習が必要です。
評価方法	各部位にて運動指導に繋がるように、筋肉・腱の名称と働きを把握する。骨・関節・靭帯などの名称・部位を把握する。 テスト評価100%
受講生へのメッセージ	運動指導をするうえで基本となる機能的解剖学は、1つ1つ地道に覚える事が大切です。

【使用教科書・教材・参考書】

成美堂出版：「ぜんぶわかる筋肉の名前としくみ辞典 ・ ぜんぶわかる骨の名前としくみ事典」
（参考書）教科書で分かりにくい部位を参考資料として、毎回配布

2025年度　授業概要

学　科　：スポーツマネジメントテクノロジー科

科目名（英）	水中運動指導法 Teaching Method of Aquabics	必修選択	必修	年次	1	担当教員	勝田 寿徳・川原 崇 他
						実務経験	○
		授業形態	演習	総時間（単位）	15 1	開講区分	前期
コース	コース共通					曜日・時限	

【授業の学習内容】（※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する）

有酸素運動の1つである、水泳・水中運動で幅広い年齢層に対応できる運動指導の実践方法を知るために、水の特性、運動の種類、効果、安全性を学習していきます。また、健康運動実践指導者を取得するための必修科目としても学習します。

※実務経験
勝田 寿徳…インストラクター歴17年。健康運動実践指導者の資格を所有し、フィットネスクラブ・公共施設の運動指導に携わる。
川原　崇…トレーナー歴21年。海外にてATCの活動を経て、病院でのトレーナーを経験。現在はスタジオの経営傍らトレーナーとして指導も行っている。

【到達目標】

・水泳、水中運動とはどんな種類のものがあるのかを知り、理解する
・水泳、水中運動にはどんな特性・リスクがあるのかを知り、説明が出来る
・水泳、水中運動にはどんな効果があるのかを知り、説明が出来る
・（泳法）姿勢の作り方や脱力のスキルを身につける
・（水中運動）水中ウォーキングの種類を実践し、指導の幅を増やす
・（水中運動）音楽に合わせたアクアビクスを実践し、指導の幅を増やす

授業計画・内容	
1回目	プールの利用方法（取り決められたルールなど）について理解することができる
2回目	水の特性、効果について理解し、説明することが出来る（小テストの実施）
3回目	水泳、水中運動の種類と強度設定、傷害リスクを理解し、説明することが出来る（小テストの実施）
4回目	（水泳）各泳法の姿勢の作り方、脱力方法を実践し、身につけることが出来る①
5回目	（水泳）各泳法の姿勢の作り方、脱力方法を実践し、身につけることが出来る②
6回目	（水泳）心拍数の測定、強度のコントロールを身につけ長距離の泳法を身につけることが出来る
7回目	（水中運動）水中ウォーキングでの強度の設定や効果を体感し、指導内容をまとめ説明することが出来る
8回目	（水中運動）音楽に合わせたアクアビクスでの強度の設定や効果を体感し、指導内容をまとめ説明することが出来る
9回目	
10回目	
11回目	
12回目	
13回目	
14回目	
15回目	
準備学習時間外学習	健康運動実践指導者テキスト内にある、水泳・水中エクササイズについて予習をしておくこと
評価方法	・小テスト（20%） ・レポート【3枚】（70%） ・授業内評価（10%）：出欠等
受講生へのメッセージ	魅力：指導者として、安全で効果的で楽しく継続できるような運動指導を行う為には、専門領域を広げ、幅広い年齢層へ指導が出来ることが重要です。その為には、偏ったトレーニングに目を向けるのではなく、環境設定・強度設定にも目を向けお客様に提案できる幅を広げていきましょう。資格取得にも必要な科目となるためしっかりと受講しましょう。 授業計画：プールに入って演習を行います。体調管理には十分に気をつけて欠席をしないようにしてください。

【使用教科書・教材・参考書】

公益財団法人 健康・体力づくり事業財団：「健康運動実践指導者養成用テキスト」

2025年度　授業概要

学　科　：スポーツマネジメントテクノロジー科

科目名（英）	イベント Event Planning	必修選択	選択必修	年次	2	担当教員	森田　康裕・西田　俊介
						実務経験	○
		授業形態	講義	総時間（単位）	30 2	開講区分	前期
コース	スポーツマネジメントテクノロジー					曜日・時限	金曜日・4限

【授業の学習内容】（※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する）

イベントを実行するための基礎的な企画、準備、実施の流れと管理方法を学びます。
また業界で求められる知識＆人材に関しても学び、ビジネスへ活かすための適応力を鍛え、
絶えず変化する環境、雇用、多様化するグローバル社会に適応し、成功するために必要な能力の育成に取り組みます。

※実務経験：自治体・企業イベント企画運営、公式イベントスタッフ、専門学校講師など
2019より地元福岡にてesports事業開始（2022法人化）
業界研究、後進育成、イベント企画運営、コンサルティングなどの業務を行っている

【到達目標】

・資格を取得する
・イベントの基本的な構成の把握、提案力を身に付ける
・イベントで必要となる機材の知識及び基本操作を身に付ける
・マーケティングやビジネス環境について自分なりに分析、評価、提案ができる

授業計画・内容	
1回目	本講義の目的と概要説明、現状理解度の確認
2回目	イベントに関する知識と技術、求められる役割を説明できる
3回目	イベントを構成する組織と開催意義、ターゲット分析と集客を説明できる
4回目	企画運営の流れ、イベント資料制作について説明できる
5回目	現場での知識と動き、実際に使用する機材を説明できる
6回目	企画書制作実習
7回目	理解度チェック
8回目	放映権ビジネスと観戦者の理解について説明できる
9回目	マーケティングと顧客ロイヤルティを説明できる
10回目	現状と今後の願望
11回目	プレゼン用企画書制作実習
12回目	企画書プレゼン
13回目	イベント開催へ向けた課題制作のアドバイス及び実習
14回目	イベント開催へ向けた課題制作のアドバイス及び実習
15回目	課題プレゼン発表共有、討議
準備学習 時間外学習	準備：イベントスキームの大まかな把握 時間外学習：授業内容の復習及び業界調査、資格試験勉強
評価方法	取組姿勢、課題提出、習熟度により評価。 状況に応じて実技テストやディスカッションを行う。
受講生への メッセージ	基礎やアイデアの発想法を学びイベント分野の理解度を上げる講義です。 ディスカッションなどで自身の考えを言語化し、実習で実践力を鍛える内容を予定しています。

【使用教科書・教材・参考書】

UDジャパン：「イベント検定公式テキスト　基礎から学ぶ、基礎からわかるイベント」

2025年度 授業概要

学 科 ：スポーツマネジメントテクノロジー科

科目名（英）	スポーツプログラミング Sports Programming	必修選択	選択必修	年次	2	担当教員	古野 透
						実務経験	○
		授業形態	講義	総時間（単位）	30 2	開講区分	前期
コース	コース共通					曜日・時限	水曜日3限、金曜日2限

【授業の学習内容】（※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する）

健康運動実践指導者の資格合格を目指して取り組む。
また、現場でも必要な考え方なので、その理論を身につけ活用できるようにする。

※実務者経験 トレーナー歴10年、小学生～実業団のチームトレーナーを中心に現在までのべ15チームを指導
また、一般の方から高齢者までスポーツクラブや公共施設でトレーニング・コンディショニングを行う。

【到達目標】

目標①：各項目の理論を理解し、説明できる
目標②：現場での活用方法を身につける
目標③：健康運動実践指導者の資格合格

授業計画・内容	
1回目	オリエンテーション、授業説明
2回目	健康づくりのための身体活動基準2013、健康づくりのための身体活動指針（アクティブガイド）
3回目	健康づくりのためのトレーニングの原則
4回目	健康づくりのための運動プログラムの作成上のポイント
5回目	健康づくりと運動プログラム作成の基礎
6回目	ウォームアップとクールダウン
7回目	有酸素運動とその効果
8回目	レジスタンス運動
9回目	テーマ別プログラム作成①
10回目	テーマ別プログラム作成②
11回目	テーマ別プログラム作成③
12回目	テーマ別プログラム作成④
13回目	定期試験対策
14回目	定期試験
15回目	回答用紙返却、解説
準備学習時間外学習	・授業内容の復習 ・人とのコミュニケーション能力
評価方法	・定期試験（100点分）
受講生へのメッセージ	一般の方に運動指導するうえで必要な考え方となります。ぜひ、内容を理解して現場で活用できるようになりましょう。

【使用教科書・教材・参考書】

公益財団法人 健康・体力づくり事業財団：「健康運動実践指導者養成用テキスト」

2025年度 授業概要

学 科 ：スポーツマネジメントテクノロジー科

科目名（英）	スポーツ医学 Sports Medicine	必修選択	必修	年次	2	担当教員	久保 智之
						実務経験	○
		授業形態	講義	総時間（単位）	30	開講区分	前期
コース	コース共通				2	曜日・時限	金曜日1限

【授業の学習内容】（※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する）

スポーツに携わるトレーナーの役割には、①スポーツ傷害の予防、 ②スポーツの現場での救急処置の実施、 ③スポーツ傷害の治療・リハビリテーションを含む再発・予防 の大きく3つがある。これら3つの役割を習得するため、スポーツ医学の基礎知識を理解し、本授業終了時には、スポーツ傷害のメカニズム、治療方法、リハビリテーション、予防方法が説明できるようになる。
※実務者経験：2004年～現在まで福岡工業大学ラグビー部メディカルトレーナとして活動。
主業務は選手のケア、アスレティックリハビリテーション、試合帯同。

【到達目標】

スポーツ傷害の受傷機転、症状、治療、リハビリ、予防法を理解し、説明ができる。
アスリハの基礎知識（ストレッチ、トレーニング）について理解し、説明ができる。
＜具体的な目標＞
目標①スポーツ傷害の病態、発症メカニズムを説明できる。
目標②傷害に適した評価を行い、説明することができる。
目標③傷害に適したリハビリテーションを実践できる。

授業計画・内容	
1回目	スポーツ傷害の基礎知識 （目標）外傷と障害の違いについて説明ができる。
2回目	運動器の基礎知識 （目標）神経、筋肉、骨、軟骨、腱、靭帯について説明ができる。
3回目	全身の基礎知識1 （目標）呼吸、循環、上肢の骨、下肢・骨盤の骨について説明できる。
4回目	全身の基礎知識2 （目標）頭部・脊柱の骨、上肢の筋肉、下肢の筋肉、体幹の筋肉について説明ができる。
5回目	スポーツのケガの知識1 （目標）スポーツ現場での処置、頭部外傷、脳震盪、急性硬膜下血腫について説明ができる。
6回目	スポーツのケガの知識2 （目標）顔面の外傷、頚髄損傷、椎間板ヘルニア、腰椎分離症、腰痛、頚椎捻挫ついて説明ができる。
7回目	スポーツのケガの知識3 （目標）投球障害肩、肩関節脱臼、肩鎖関節脱臼、腱板損傷、野球肘（成長期・成人）、テニス肘について説明ができる。
8回目	スポーツのケガの知識4 （目標）野肘関節脱臼、TFCC損傷、突き指、スポーツ名がついた指のケガ、股関節周辺の痛みについて説明ができる。
9回目	スポーツのケガの知識5 （目標）ACL・PCL・MCL・LCL損傷、半月板損傷、、膝のスポーツ障害について説明ができる。
10回目	スポーツのケガの知識6 （目標）足関節捻挫、アキレス腱断裂、シンスプリント、足部のスポーツ障害、骨折、疲労骨折について説明ができる。
11回目	アスリハの知識1 （目標）ストレッチ、腰痛・膝蓋靭帯損傷に対するアスリハ、上肢・下肢のケガに対するアスリハについて説明ができる。
12回目	アスリハの知識2 （目標）競技別アスリハ〔野球、バスケ、サッカー、ラグビー、陸上〕、テーピング、装具・サポーターについて説明ができる。
13回目	内科的障害と対策 （目標）栄養、女性・成長期・障害者・中高年者とスポーツ、突然死、熱中症、アンチドーピングについて説明ができる。
14回目	後期テスト
15回目	テスト返却、解説
準備学習時間外学習	（目標①）骨格筋の名称、位置、起始・停止の予習が必要。 （目標②）骨の位置、名称、関節の構造の予習が必要。 （目標③）スポーツ傷害の原因、発生メカニズム、対処法について予習が必要。
評価方法	定期テスト（100%） 筆記
受講生へのメッセージ	トレーナーの仕事はスポーツ選手の健康管理、スポーツ障害・外傷の予防、応急処置、リハビリテーション、体力トレーニング、コンディショニングなど多岐にわたります。機能解剖学や運動生理学に関する専門的な知識に加え、ケガについての知識も必要になります。 スポーツの現場で必要な知識や技術を身につけ、アスリートファーストを第一に考えて選手をサポートできるトレーナーになりましょう。

【使用教科書・教材・参考書】

Reference Book (JSPO)

2025年度 授業概要

学 科 ： スポーツマネジメントテクノロジー科

科目名（英）	スポーツ障害 Theory of Sports Injury	必修選択	選択必修	年次	2	担当教員	平本宏樹
						実務経験	○
		授業形態	演習	総時間（単位）	30	開講区分	前期
コース	コース共通				2	曜日・時限	金曜日4・5限（隔週）

【授業の学習内容】（※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する）

スポーツ障害の内容は、身体の部位別に大別され、更にスポーツ外傷と傷害の怪我別に分けられる。まずは、スポーツ外傷と傷害の違いを理解し、スポーツ現場で関わることが多い疾患についての理解を深める。そして、スポーツ外傷に対して、適切な救急対応と応急処置ができ、スポーツ現場でチームスタッフ・選手の命を守れるスポーツ指導者を目指す。更に、スポーツ外傷・傷害の症状に応じたテーピングを選択し施行できるようになる。
※実務者経験：主業務は、メディカル・アスレティックリハビリテーション、トレーナー業務全般（テーピングなど）
2017年4月-2018年12月、社団法人 鎮誠会 東金整形外科 リハビリテーション科 理学療法士
2019年1月-2022年12月、レノファ山口FC トップチーム フィジオセラピスト
2023年5月-現在、レノファ山口FC アカデミー フィジオセラピスト

【到達目標】

各部における、スポーツ外傷・傷害を理解し、その怪我に対して、適切な応急処置とテーピングが実施できる。

	授業計画・内容
1回目	授業のオリエンテーション、スポーツ外傷・傷害について
2回目	スポーツ外傷の救急対応と応急処置について ①開放性損傷に対する応急処置 ②非開放性損傷に対する応急処置
3回目	テーピング総論
4回目	キネシオテーピング
5回目	テーピング各論① 足部アーチ、踵部 （25mm非伸縮 50mm伸縮 50mmEL）
6回目	テーピング各論② アキレス腱に対するテーピング、足関節の基本テーピング （アンダーラップ 38mm非伸縮 50mm伸縮 50mmEL）
7回目	テーピング各論③ 足関節の応用テーピングⅠ （アンダーラップ 38mm非伸縮 50mm伸縮 75mm伸縮 50mmEL）
8回目	テーピング各論④ 足関節の応用テーピングⅡ、下腿部 （アンダーラップ 38mm非伸縮 50mm伸縮 75mm伸縮 50mmEL）
9回目	テーピング各論⑤ 大腿部の肉離れ、腰部に対するテーピング （38mm非伸縮 50mm非伸縮 50mmEL 75mmEL）
10回目	テーピング各論⑥ 膝関節に対するテーピング （アンダーラップ 75mm伸縮）
11回目	テーピング各論⑦ 肩関節、肘関節に対するテーピング （75mm伸縮 アンダーラップ 50mm伸縮 50mmEL）
12回目	テーピング各論⑧ 手関節、手指に対するテーピング （アンダーラップ 12mm非伸縮 25mm非伸縮 38mm非伸縮 50mm伸縮 50mmEL）、実技・筆記テスト対策
13回目	実技テスト （アンダーラップ 38mm非伸縮 50mm伸縮 50mmEL）
14回目	筆記テスト
15回目	筆記テスト返却、実技・筆記テスト解説
準備学習 時間外学習	①各部位の怪我に対する知識が必要 ②実技修得に向けての自主練習が必要
評価方法	実技テスト（50点）＋筆記テスト（50点） ※授業内で加点対象の課題あり（10点分）
受講生へのメッセージ	スポーツに関わる仕事をするなかで、怪我の場面に遭遇し、スポーツ外傷・傷害の知識が必要となることがあります。その際に、自身を守り、身近な人の命を守るためには、正しい知識がなければなりません。スポーツ障害の授業を通して、スポーツ外傷・傷害の理解を深め、更に症状に対して適切な応急処置とテーピングができるように努めていきましょう。

【使用教科書・教材・参考書】

ASICS Corporation：「ASICS ATHLETIC TAPING WORK SHOP TEXT」
はさみ、テーピング（授業時に配布）

2025年度 授業概要

学 科 ：スポーツマネジメントテクノロジー科

科目名（英）	トレーニング指導者基礎講座 Basic Seminar for JATI-ATI	必修選択	選択必修	年次	2	担当教員	古野 透
						実務経験	○
		授業形態	講義	総時間（単位）	30 2	開講区分	前期
コース	コース共通（資格選択希望者）					曜日・時限	木曜日・4限

【授業の学習内容】（※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する）

資格合格を大前提に、教科書の内容を中心に理解を深め身につける。小テストも定期的に行い授業の理解度を把握するとともに予習・復習の習慣をつけることも目標とする。
また卒業後、即戦力で現場で使える知識を養っていく。

※実務者経験 トレーナー歴10年、小学生～実業団のチームトレーナーを中心に現在までのべ15チームを指導
また、一般の方から高齢者までスポーツクラブや公共施設でトレーニング・コンディショニングを行う。

【到達目標】

目標①教科書の内容を理解し、説明することができる
目標②模擬問題（10問）を行い、7問以上正解できる
目標③例年出席率が悪いため、きちんと出席し授業を受けることができる

授業計画・内容	
1回目	体力トレーニング総論、機能解剖（上肢）
2回目	機能解剖（体幹・下肢）
3回目	模擬問題を活用した演習
4回目	バイオメカニクス①
5回目	バイオメカニクス②
6回目	模擬問題を活用した演習
7回目	運動生理学
8回目	模擬問題を活用した演習
9回目	運動と栄養
10回目	模擬問題を活用した演習
11回目	運動と医学①
12回目	運動と医学②、運動と心理学
13回目	模擬問題を活用した演習、テスト対策
14回目	前期試験
15回目	答案用紙返却、解説

準備学習 時間外学習	目標①授業の内容を復習する 目標②教科書を読む頻度を増やす
評価方法	50問（1問2点）出題し合計100点とする。
受講生へのメッセージ	JATIの資格は簡単に取得できるものではありません。日々、教科書を読み、授業の内容を復習するといった積み重ねが非常に大切となります。1年は長いようであっという間に経つので、早いうちに習慣づけるようにしましょう。

【使用教科書・教材・参考書】

大修館書店：「トレーニング指導者テキスト 理論編・実践編」

2025年度 授業概要

学 科 ：スポーツマネジメントテクノロジー科

科目名（英）	マーケティング Markting	必修選択	選択必修	年次	2	担当教員	児玉のりこ
						実務経験	○
		授業形態	演習	総時間（単位）	30 2	開講区分	前期
コース	スポーツマネジメントテクノロジー					曜日・時限	火曜日3限

【授業の学習内容】（※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する）

マーケティングとは何か、なぜマーケティングの知識が必要なのか理解する。
演習を通じて、基礎知識をふまえて各種計画が立てられるようになり売上の収支構造を理解する。

実務者経験：テーマパーク物販/イベント企画立案・集客に従事。広告代理店にてプロモーション戦略・営業企画など様々な実務を経験。

【到達目標】

目標①ターゲットと商圏ついて理解することができる。
目標②商品化計画ができるようになる。
目標③店舗のプロモーション計画ができるようになる。
目標④売り場づくりに必要な集客手法・ディスプレイ計画ができるようになる。
目標⑤売上収支を踏まえた集客施策・出店計画ができるようになる。

授業計画・内容	
1回目	マーケティングとは何かについて説明することができる
2回目	対面販売とwebの違い・メーカーと小売業のマーケティングの違いを説明することができる
3回目	ターゲティングの考え方・商圏について理解し、説明することができる
4回目	商圏、立地を鑑み、出店計画を立てることができる
5回目	マーケティングの視点に立ち、商品化計画ができるようになる
6回目	プロモーションの概要と種類について説明することができる
7回目	購買行動を学びプロモーション計画を立てることができる
8回目	【中間テスト】出店計画・・商品化計画・プロモーション計画に関するテスト
9回目	売り場づくりに必要なディスプレイ手法を理解し、説明することができる
10回目	集客に必要なマーケティング手法を理解し、説明することができる
11回目	商品の価格設定について理解し、説明することができる
12回目	小売店の利益構造を知り、売上収支を計算することができる
13回目	売上収支を踏まえた集客施策や出店計画を立てることができる
14回目	【期末テスト】売上収支を踏まえた出店計画、ディスプレイ計画/プロモーション販売に関するテスト
15回目	前期まとめ/テスト振返り
準備学習 時間外学習	皆さんの好きなお店について考えてきてください。 「なぜ好きなのか」「なぜもう一度行きたいのか」をお客様目線に立ち、お店に行くきっかけや理由を考えてみましょう。
評価方法	授業内に実施する演習実践30% 中間テスト30% 期末テスト40%
受講生へのメッセージ	お店づくりや出店には「マーケティング」の視点が必要です。 お客様視点を持つことで「人気店の理由」が分かる様になると思います。 集客できるお店づくりや商品・イベントプロモーション、出店計画を楽しく学んでいきましょう。

【使用教科書・教材・参考書】

日本実業出版社：「販売促進実践講座」

2025年度　授業概要

学　科　：スポーツマネジメントテクノロジー科

科目名（英）	映像制作2 Video Production Ⅱ	必修選択	選択必修	年次	2	担当教員	今林 佑太
						実務経験	○
		授業形態	演習	総時間（単位）	60 4	開講区分	前期
コース	スポーツマネジメントテクノロジー					曜日・時限	月曜日 1・2限

【授業の学習内容】（※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する）

・映像制作を行うための制作オペレーション（企画、演出、絵コンテの作成、カメラワークの作り方）
・映像制作を行うために必要な撮影知識・技術の習得（一眼カメラ、付属する機材の扱い方）
・Premiere Pro、After Effectsを使用した映像素材の編集とエンコード

実務経験：中小企業を中心とし広告映像を制作

【到達目標】

自分で作成した企画を基に一眼カメラを使用してクオリティ高く訴求力のある動画を計画通りに制作することができるようになる
他者が撮影した素材を編集で演出を加えて、クオリティの高い映像を制作することができるようになる

授業計画・内容	
1回目	1年次の復習（Premiere Pro）の操作方法、基本知識、簡単なオリジナルドラマの編集
2回目	インタビュー映像の撮影方法、マルチカメラの編集方法
3回目	座学（解像度、フレームレートについて）／スローモーション映像の撮影方法
4回目	ブラシレスジンバルを使ってのテスト撮影（一眼カメラ）＆編集
5回目	シネマティックBロールの制作①ー企画（個人制作）
6回目	シネマティックBロールの制作①ー撮影
7回目	シネマティックBロールの制作①ー撮影／編集
8回目	シネマティックBロールの制作①ー編集
9回目	シネマティックBロールの制作①ー試写
10回目	After Effectsの基本知識、簡単なアニメーション方法 テキストアニメーションの作り方
11回目	After Effects　イージーイーズを使ったアニメーション作成　リンクしたファイルのモーション
12回目	After Effects　loopoutなどのエクスプレションを使用したインフォグラフィックスの作成
13回目	After Effectsでのトラック処理、オブジェクト追従の方法
14回目	After Effects　アニメーション付きの名刺動画の作成①
15回目	After Effects　アニメーション付きの名刺動画の作成ー試写
準備学習 時間外学習	①自分のスマートフォンで出来事を撮影する（横動画を中心に） ②広告映像（TV-CMやTV番組）などから演出やカメラワークを意識して視聴する
評価方法	授業内で制作する成果物によって評価します
受講生へのメッセージ	1年生では主に模写や簡単な作品がメインでしたが今期はスキルを活かしたオリジナルの映像を制作してもらいます。 その他、After Effectsを使ったアニメーションや一眼カメラやジンバルなども積極的に活用して楽しく映像制作をしていきましょう！ グループ制作もありますので、就活等で大変な時期ではあるかと思いますがグループメンバーに極力負担がかからないように連絡相談はマメに行うようにしてください。

【使用教科書・教材・参考書】

イヤホン or ヘッドフォン（有線モデルの方が望ましい）
個人のHDD

2025年度　授業概要

学　科　：スポーツマネジメントテクノロジー科

科目名（英）	PV・モチベーションビデオ Promotion&Motivation Video	必修選択	必修	年次	4	担当教員	今林 佑太
						実務経験	○
		授業形態	演習	総時間（単位）	60 4	開講区分	前期
コース	スポーツマネジメントテクノロジー					曜日・時限	火曜日3限

【授業の学習内容】（※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する）

・映像制作において必要な知識、企画立案（プレゼン）絵コンテ（カメラワーク、カット割）の作成
・一眼カメラを使用した撮影実習、三脚の取り扱い方、アフレコなどの素材作成
・PremierePro、After Effectsを使用した映像編集

実務経験：中小企業を中心とし広告映像を制作、Web映像コンテンツの制作

【到達目標】

企業または団体（チーム）が求めている映像を企画から完パケまでをオペレーションできるようになる
一眼カメラを使用した映像撮影（ジンバルやショットガンマイクなども含む）の指示出し、オペレートできるようになる

授業計画・内容	
1回目	制作する映像企画を決定。シナリオハンディング、企画資料の作成
2回目	企画を基に制作映像のコンテの作成、カメラワーク、カット割などの書き込み
3回目	絵コンテを基に制作準備、ロケハン、キャスト、役割分担など
4回目	制作した資料を基にプリプロダクションミーティングの実施（プレゼンデータ、資料の提出）
5回目	撮影機材の復習（一眼カメラ）、ブラシレスジンバル、音声機材の使い方
6回目	制作したコンテを基に映像の撮影①・取り込み
7回目	
8回目	制作したコンテを基に映像の撮影②・取り込み
9回目	
10回目	制作したコンテを基に映像の撮影③
11回目	撮影した映像素材の確認→部分的な再撮影・音録りなど
12回目	撮影した映像素材をPremiereProを使って編集　→オフライン状態での試写
13回目	After Effectsを使用して映像処理、カラーグレーディング、クロマキー合成など
14回目	After Effectsを使用して映像処理②、カラーグレーディング、クロマキー合成
15回目	Premiere Proを使った仕上げ作業（音調整、色補正）、エンコード→完パケの試写
準備学習時間外学習	資料の作成、（必要であれば）キャスト協力者の募集
評価方法	授業内で制作する成果物によって評価します
受講生へのメッセージ	カメラの扱い方や編集ソフトの扱い方などを思い出しながら自分たちが作ってみたい作品にチャレンジしましょう！自分の役割を理解し責任を持って制作に取り組んでください。1人だけに作業が集中しないようにしましょう

【使用教科書・教材・参考書】

イヤホン or ヘッドフォン（有線モデルの方が望ましい）
個人のHDD

2025年度 授業概要

学 科 ：スポーツマネジメントテクノロジー科

科目名（英）	就職対策講座 Business Seminar	必修選択	必修	年次	4	担当教員	白石 真紀
						実務経験	○
		授業形態	講義	総時間（単位）	30 2	開講区分	前期
コース	全コース共通					曜日・時限	月曜日4限

【授業の学習内容】（※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する）

【授業内容】
企業に対して、志望動機や自分の強みを的確に伝える力を身につけて、就職活動において自信を持って動けるようになる。

※実務経験
大学卒業後は医療コンサルティング会社の営業を経て、司会業に転身。イベント、式典、婚礼、講演会などの司会業務に従事して26年、担当婚礼件数は2,000組を更新中。国家資格キャリアコンサルタントを取得後は、専門学校、短大、大学において、社会人基礎力、コミュニケーションの講義を担当、就活生に向けて面接指導を行い、現在に至る。

【到達目標】
・企業の方に「この人と会って話してみたい」「採用したい」と思われる履歴書やエントリーシートが書けるようになる。
・実際の面接を意識したロールプレイングの反復練習により、伝えたいことが明確になり、面接で自信を持って自己PRができるようになる。

授業計画・内容	
1回目	オリエンテーション　授業の目的を理解し、ゴールを見据えることができる。（現状の確認）
2回目	就職試験対策①　筆記試験について、種類を理解し、やるべき基礎対策が理解できる。 履歴書に取り組む。
3回目	就職試験対策②　面接試験に対応する力を習得できる。（集団面接） 履歴書を仕上げる。
4回目	就職試験対策③　日頃の筆記試験対策について結果を出すことができる。（習得チェック）
5回目	就職試験対策④　面接試験での対応力を発揮できる。（グループディスカッション）
6回目	就職試験対策⑤　筆記対策について、実力を確認出来る。（習得チェック）
7回目	就職試験対策⑥　面接試験での対応力を発揮できる。（個人面接）
8回目	就職試験対策⑦　面接試験において実力を発揮できる。（グループディスカッション）
9回目	就職試験対策⑧　面接対策において、選考が進んだ際に意欲的に自己PRできる。
10回目	ビジネスマナー①　メールの送受信をマスター出来る。
11回目	ビジネスマナー②　電話応対の基本をマスター出来る。
12回目	ビジネスマナー③　お礼状を含めた書類作成について基本ルールをマスターできる。
13回目	就職試験対策⑨　内定後の企業への対応について理解できる。
14回目	就職試験対策⑩　入社後に知っておくべき知識を理解できる。
15回目	まとめ
準備学習 時間外学習	・就職を見据えて、時事問題、業界のニュースを常に把握するよう務めてください。 ・課題提出や時間（授業の開始含めて）など、期限は遵守するようにしてください。 ※就職活動の進捗により、内容変更や順番が前後することがあります。
評価方法	定期試験（基礎知識）50% 課題提出（履歴書） 50%
受講生への メッセージ	いよいよ就職活動本番です。これまでの自己分析や企業研究を基に、納得のいく自己PRで、志望する企業に対し、内定を獲得していきましょう。

【使用教科書・教材・参考書】

・適宜、資料を配布します。

2025年度　授業概要

学　科　：スポーツマネジメントテクノロジー科

科目名（英）	発育発達 Growth and Development	必修選択	選択必修	年次	4	担当教員	市丸　直人
						実務経験	○
		授業形態	講義	総時間（単位）	30 2	開講区分	前期
コース	コース共通					曜日・時限	月曜日・1限

【授業の学習内容】（※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する）

ヒトの成長を中心に、発育発達期の身体的・心理的特徴などのジュニア期のスポーツ活動に欠かせない知識やケガや病気などを考慮した運動プログラム等を作成する能力を養う。また、性差・発育発達差に応じたトレーニングや運動・スポーツの指導ができるようにし、主に運動生理学及びバイオメカニクス的背景と共に説明できるようにする。
※実務経験※
大学での教鞭の傍ら、大学野球部へのトレーニング指導を中心に指導者として活動、多種競技（バスケットボールやバレーボールなど）への指導に携わる

【到達目標】

本授業は日本スポーツ協会スポーツ指導者の養成の趣旨に則り、公認スポーツ指導者資格として5つの領域にわたる18種の資格に対応できるよう、ライフステージに応じた多様なスポーツ活動を推進することのできるスポーツ指導者の育成を目指す。このため、日本スポーツ協会レファレンスブックの内容を中心とした授業を展開する。これにより、必要不可欠な知識や技能を習得するとともに、その立場から指導できる能力を養うことを目標とする。

授業計画・内容	
1回目	授業全体のガイダンス。特に、現場・環境に応じたコーチングについて、全体的に理解する。
2回目	ジュニア期のコーチングの留意点について理解する。
3回目	年齢区分からみたコーチングの留意点について理解する。
4回目	トレーニングの至適年齢について理解する。
5回目	遺伝の影響について理解する。
6回目	運動部活動でのコーチングの留意点について理解する。
7回目	中高年者へのコーチングの留意点について理解する。
8回目	性別の考慮について理解する。
9回目	月経の基礎知識について理解する。
10回目	女性アスリートのフィジカルトレーニングについて理解する。
11回目	運動と老化について理解する。
12回目	運動のプログラムその1（基本）について理解する。
13回目	運動のプログラムその2（応用）について理解する。
14回目	定期試験を通して、授業全体の内容を理解する。
15回目	定期試験用紙の返却を通して、授業全体の理解を深める。
準備学習時間外学習	各時間のテーマは講義と演習によって行い、各時間ごとの理解度を深めるために小テストを実施しますので、予習・復習各1時間程度の励行に努めてください。
評価方法	筆記試験（70%）、演習試験（15%）、授業中に実施する演習（15%）程度とし、原則毎時間小テストを実施します。
受講生へのメッセージ	上記の内容と形態で授業を進めます。各時間のテーマは講義と演習によって行いますので、関連する類似科目と共に予習・復習をするなどして、効果的な授業の理解に役立ててください。

【使用教科書・教材・参考書】

公益財団法人 日本スポーツ協会：「リファレンスブック」
授業実施者（市丸）が作成した教材等。

2025年度 授業概要

学 科 ：スポーツマネジメントテクノロジー科

科目名（英）	エンタメビジネス Entertainment Business	必修選択	選択必修	年次	1	担当教員	山本 啓一
						実務経験	
		授業形態	講義	総時間（単位）	30 2	開講区分	前期
コース	プロスポーツマネジメント					曜日・時限	月曜日・2限

【授業の学習内容】（※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する）

この授業では、スポーツ業界におけるエンターテインメントの重要性を学び、「スポーツ×エンタメ」による新たな価値創造の可能性を探ります。近年、スポーツは単なる試合観戦にとどまらず、地域活性化や社会課題解決の手段として注目されています。本授業では、国内外のスポーツチームやイベントの成功事例を通して、スタジアムの演出、ファンとの接点づくり、テクノロジー活用、地域連携など多角的な視点を身につけます。一方的ではなく対話式で進めていきます。毎回30分以上ワークショップを導入します。

「試合だけがスポーツじゃない！」

ファンが熱狂する裏には、会場演出・グッズ・SNSなど、たくさんの"仕掛け"があります。

この授業では、エンタメとスポーツの関係を学びながら、自分たちで「モリアゲ企画」を考えることで、スポーツビジネスの現場感と面白さを体験します

【到達目標】

①スポーツ業界におけるエンターテインメントの価値を、自らの体験や感情を交えて他者に"語れる"ようになる。
→ 単なる知識の暗記ではなく、自分の視点・感情・共感をもって伝える力を養います。

②複数人の意見を取り入れながら、"スポーツ×〇〇"の新しい企画をゼロから構想し、仲間と共に形にすることができる。
→ グループでの協働やプレスト、調整・発展のプロセスを体験し、実行力を身につけます。

③プレゼンテーションの場で、自分の言葉と熱量で聴き手を惹きつけ、共感を得る発表ができる。
→ 感情・情熱・即興対応など、人間的な表現力を鍛えます（AIには不可能な領域）。

授業計画・内容	
1回目	はじめに：スポーツ×エンタメって何？：授業のゴール／自己紹介／エンタメとは何か？
2回目	スポーツビジネスの基本：業界の全体像／お金の流れ／役割
3回目	会場装飾の力：バナー・のぼり・LED演出でどう"盛り上げる"？
4回目	グッズの企画って面白い！タオル・Tシャツ・応援アイテムの工夫と売れ方（好きなグッズを分析しよう）
5回目	SNSと映えるモノの関係/写真映え・動画映えの工夫と戦略
6回目	基本的経営戦略とマーケティング：地域密着型戦略と5Cペルソナ・カスタマージャーニーマップ①
7回目	基本的経営戦略とマーケティング：地域密着型戦略と5Cペルソナ・カスタマージャーニーマップ②
8回目	ワーク：「ペルソナ・カスタマージャーニーマップ」を描け！
9回目	スポンサーアクティベーションとその事例
10回目	ワーク：企業コラボのアクティベーションを設計せよ！
11回目	国内・海外のスポーツエンタメ事例：熱狂設計
12回目	スポーツ×地域のつながり：地方クラブの地域活性事例
13回目	異業種から学ぶエンタメ戦略！お笑い等
14回目	企画立案ワーク/コンセプト設計、ターゲット、収益モデルなどを考える（×エンタメ）
15回目	最終プレゼン発表会/全グループの発表とフィードバック
準備学習 時間外学習	授業は誰でも分かりやすく平易な言葉で進めますのでご安心ください。楽しく学ぶのが一番なので、笑いのある授業にしていきます。
評価方法	期末試験 50% プレゼン 50%
受講生への メッセージ	エンタメビジネスという授業ですが、現役の経営者としてスポーツに限定せずに、社会で必要なことは教えていきます。皆様の将来に役に立つ話がきっとできると思います。私と共に一緒に成長していきましょう。 また途中でゲスト講師もお呼びする予定です。楽しみにしておいてください。

【使用教科書・教材・参考書】

稼ぐがすべて Bリーグこそ最強のビジネスモデルである:葦原 一正氏
B.LEAGUE公認 最強のスポーツクラブ経営バイブル：島田 慎二氏

2025年度 授業概要

学 科 ：スポーツマネジメントテクノロジー科

科目名（英）	グローバルコミュニケーション Bレベル Global communication	必修選択	選択必修	年次	1	担当教員	ILC担当教員
		授業形態	演習	総時間（単位）	30 2	開講区分 曜日・時限	前期 火曜日5限目・木曜日5限目
コース	コース共通						

【授業の学習内容】（※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する）

日常生活での情報・説明やまとまりのある内容が理解できるようになる。また日常生活の話題について、出来事の説明・用件を伝えることができる。

【到達目標】

最も身近な分野（個人情報や家族、買い物等）に関する頻度の高い表現を理解し、文章を書くことができる。単純なトピックについて自分の意見を述べることが出来るようになる。母語話者とは一般的なディスカッションや会話の交渉できる。

授業計画・内容	
1回目	[WH-question]を使って相手の性格について尋ねる会話を練習する
2回目	「間接疑問文」を使って、人に質問をする、また質問に答える練習をする
3回目	自己紹介と他己紹介に関する会話を練習する
4回目	誰かと知り合いになるためのメールを書く
5回目	Time to Speak:・スピーキング：ロールプレイ・プレゼンテーション「良いリーダーになるために必要なこと」
6回目	現在進行形を使って持ち物について話す
7回目	現在完了形を使って持ち物やその機能などについて話す
8回目	聞き返しの表現や話題を変える際の表現を使ってディスカッションをする
9回目	欲しいものについての広告を書く
10回目	Time to Speak: ・スピーキング：ロールプレイ・プレゼンテーション「出かける時の持ち物について」
11回目	冠詞に注意しながら、自分の町について尋ねる、また質問に答える練習をする
12回目	[would/could/should]を使って、他の場所への生き方について話す
13回目	建物内の道案内の場面での会話を練習する
14回目	求人に対して志望動機を書く
15回目	Time to Speak:・スピーキング：ロールプレイ・プレゼンテーション「自分の町の人気な場所についてプレゼンをする」
準備学習時間外学習	オンデマンド授業
評価方法	授業内発表
受講生へのメッセージ	

【使用教科書・教材・参考書】

EVOLVE 3

2025年度 授業概要

学 科 ：スポーツマネジメントテクノロジー科

科目名（英）	グローバルコミュニケーション Cレベル Global Communication	必修選択	選択必修	年次	1	担当教員	ILC担当教員
		授業形態	演習	総時間（単位）	30 2	開講区分	前期
コース	コース共通					曜日・時限	火曜日5限、木曜日5限

【授業の学習内容】（※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する）

リスニング、リーディング、スピーキング、ライティングの4技能を統合的に学び、興味関心のあることについての簡単な文章の読み書き、また買い物やその他の日常生活についての平易な会話ができるようになる。

【到達目標】

知人・家族について話すことができる。職場でのフォーマルなメールを読む、また書くことができる。
毎日していることについて話すことができる。ポッドキャストについての意見を読む、また書くことができる。
今していることについて話すことができる。サービス業界の会社へのメッセージを読む、また書くことができる。

授業計画・内容	
1回目	be動詞、代名詞の所有格を使って、知人・家族について話す
2回目	「～のもの」を表す表現を使って、所有物について話す
3回目	挨拶をして会話を始める練習をする、興味や驚きを表す表現を練習する
4回目	自己紹介をする。職場でのフォーマルなEメールを読む、書く
5回目	Time to Speak：スピーキング評価：ロールプレイ・プレゼンテーション「人と共通していることについて」・前期発表と連動する内容
6回目	[Wh-question]を練習する。一般動詞の疑問文、否定文を使って、習慣・ルーティンについて質問する、返答する
7回目	指示代名詞を使って、仕事や勉強をする空間について話す・質問する
8回目	意思疎通に問題があったことを説明する、繰り返しを求める表現を練習する
9回目	ポッドキャストについての意見を読む、書く
10回目	Time to Speak：スピーキング：ロールプレイ・プレゼンテーション「仕事や勉強のためのアプリについて発表する」・前期発表と連動する内容
11回目	「現在進行形」を使って、今まさに起こっていることについて話す
12回目	「現在進行形」「現在形」を練習する。スポーツ、運動について話す
13回目	知らない情報を人に尋ねたり、情報を読み取ったりできるよう、会話を練習する
14回目	サービスや会社に対するコメントを読む、書く
15回目	Time to Speak：スピーキング：ロールプレイ・プレゼンテーション「フィットネスプログラムを作る」・前期発表と連動する内容
準備学習時間外学習	オンデマンド授業
評価方法	授業内発表
受講生へのメッセージ	

【使用教科書・教材・参考書】

EVOLVE 2

2025年度 授業概要

学 科 ：スポーツマネジメントテクノロジー科

科目名（英）	グローバルコミュニケーション Dレベル Global communication	必修選択	選択必修	年次	1	担当教員	ILC担当教員
		授業形態	演習	総時間（単位）	30 2	開講区分 曜日・時限	前期 火曜日5限、木曜日5限
コース	コース共通						

【授業の学習内容】（※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する）

よく使われる日常的表現と基本的な言い回しは理解し、用いることもできる。
自分や他人を紹介することができ、個人的情報について、質問をしたり、答えたりできる。
会話相手がゆっくり、はっきりと話して、サポートをしてくれるなら簡単なやり取りをすることができる。

【到達目標】

個人的な情報について尋ねる、また述べることができる。個人的な経歴等のプロフィールを読む、また書くことができる。
友達や家族について表現することができる。友達や家族の画像にスレッドを入れたり、書かれている情報を読みとることができる。
家や家具について話すことができる。ホームシェアについてのメールを読む、書くことができる。

授業計画・内容	
1回目	be 動詞(am, are)を使って自己紹介（国籍や出身）する、または出身地を尋ねる会話を練習する
2回目	疑問代名詞[What]を使って、自分の個人情報を相手に伝え、また相手の情報を聞く
3回目	接客する側（clerk）、される側(guest)の表現を学ぶ
4回目	個人的な経歴等のプロフィールを読む・書く
5回目	Time to Speak：スピーキング：ロールプレイ・プレゼンテーション「パーティで新しい人に出会う」・前期発表と連動する内容
6回目	主語が三人称 [he, she, they]の時の、be動詞[is, are]の肯定文と疑問文の使い方を学ぶ
7回目	主語が三人称の時の、be動詞の否定文を学ぶ
8回目	日付の言い方、発音を学ぶ　年齢、誕生日に関する表現を学ぶ
9回目	位置を表す前置詞、接続詞[and]の使い方を学ぶ　短縮形の音（発音）について学ぶ
10回目	Time to Speak：スピーキング：ロールプレイ・プレゼンテーション「友達や家族についての情報を比較する」・前期発表と連動する内容
11回目	人称代名詞の所有格について学ぶ／名詞の所有を表す['s] と[s']の使い方を学ぶ
12回目	[it is]を使って、家具について話す
13回目	飲み物やお菓子を提供する、受け取る際の会話を練習する、分からない単語について質問する
14回目	ホームシェアについてのEメールのやり取りを読む、または、そのEメールを書く
15回目	Time to Speak：スピーキング：ロールプレイ・プレゼンテーション「新居の家具を選ぶ」・前期発表と連動する内容
準備学習 時間外学習	オンデマンド授業
評価方法	授業内発表
受講生への メッセージ	

【使用教科書・教材・参考書】

EVOLVE 1

2025年度 授業概要

学 科 ：スポーツ科学科

科目名（英）	コミュニケーションスキル Communication Skill	必修選択	選択必修	年次	1	担当教員	白石直子
						実務経験	
		授業形態	講義	総時間（単位）	30 2	開講区分	前期
コース	全コース共通					曜日・時限	火曜日3限

【授業の学習内容】

コミュニケーションの基礎を身につけるために、コミュニケーションスキルアップ検定の内容を勉強し、合格を目指す。過去問題や練習問題を使い授業を進める。

【到達目標】

コミュニケーションスキルアップ検定の合格を目指す。

授業計画・内容	
1回目	オリエンテーション・コミュニケーションの定義と領域、正しい挨拶の基本
2回目	基本的対話スキル ①プロセス。聞くの基本、質問の仕方
3回目	〃 ②話す基本、気持ちや考え方の交換
4回目	自己表現スキル ①挨拶、自己紹介、相手との関係を深める
5回目	〃 ②上手な頼み方、断り方、自己主張の仕方
6回目	〃 ③仕事の基本、話すをわかりやすく伝える方法、交渉、説得
7回目	〃 ④プレゼンテーション、アンガーマネジメント
8回目	社会的スキル ①敬語、電話応対、接客マナー
9回目	社会的スキル ②訪問、謝罪 ④文書
10回目	サービスマインド 顧客満足度、サービスの基本
11回目	検定対策
12回目	検定対策
13回目	前期評価試験対策
14回目	評価試験
15回目	まとめ
準備学習時間外学習	
評価方法	筆記テスト100%
受講生へのメッセージ	全員合格目指して頑張りましょう

【使用教科書・教材・参考書】

滋慶教育科学研究所：コミュニケーションスキルアップ検定

2025年度　授業概要

学　科　：スポーツマネジメントテクノロジー科

科目名（英）	コンピュータ Literacy for Information	必修選択	必修	年次	1	担当教員	井口　恵美里
						実務経験	
		授業形態	演習	総時間（単位）	30 2	開講区分	前期
コース	コース共通					曜日・時限	月曜日・3限

【授業の学習内容】（※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する）

社会人として、また、企業において必要とされる人材となる為にはコンピュータの基本操作や実践に役立つ書類作成能力・データ処理能力・プレゼンテーション能力が求められます。
この授業ではコンピュータの基本的な操作やWord・PowerPoint・Excelの基本的な文書作成及び編集・データ処理ができるスキルを修得していきます。

【到達目標】

目標①コンピュータの基本操作ができる。
目標②Wordで基本文書作成ができる。
目標③インターネットやSNSについての知識やマナーを理解し、実践できる。

授業計画・内容	
1回目	Windowsの基本操作・フォルダ作成・USBの名前変更・データのコピー&削除ができる。
2回目	Wordの基本操作・日本語入力の変換修正・記号変換・手書き入力等ができる。
3回目	Wordの基本操作・文書の入力及び編集ができる。
4回目	定型文書の作成及び編集ができる。 基礎編 ①
5回目	定型文書の作成及び編集ができる。 実践編 ①
6回目	定型文書の作成及び編集ができる。 基礎編 ②
7回目	定型文書の作成及び編集ができる。 実践編 ②
8回目	表現力のある文書作成ができる。 基礎編
9回目	表現力のある文書作成ができる。 実践編
10回目	簡単な表作成ができる。 基礎編
11回目	複雑な表作成ができる。 実践編
12回目	表を含む定型文書作成ができる。 ①
13回目	表を含む定型文書作成ができる。 ②
14回目	前期評価試験
15回目	試験解説
準備学習 時間外学習	授業進度は初心者でも理解できるように進めて行きますので特に準備学習は必要ありませんが、テキスト・USBメモリ等を忘れると授業進度に遅れが生じますので忘れ物が無い様にしてください。
評価方法	実技試験による評価　　80% 授業内評価（理解度・授業内作成課題・授業態度等）20% 割合で成績評価を行う。
受講生への メッセージ	卒業後、どのような業界に進んでも社会人としてPCスキルは必要とされます。 在学中にPCスキルを身に付け、将来皆さんが望む業界へ進んだ時に身に付けた技能を役立ててください。 演習の授業形式になりますので、欠席をしないようにしてください。

【使用教科書・教材・参考書】

VISTA ARTS:「COMPUTER BASIC Word」

2025年度　授業概要

学　科　：スポーツマネジメントテクノロジー科

科目名（英）	スポーツビジネス Sports Business	必修選択	選択必修	年次	1	担当教員	黒田　次郎
						実務経験	
		授業形態	講義	総時間（単位）	30 2	開講区分	前期
コース	プロスポーツマネジメント					曜日・時限	木曜日・1限

【授業の学習内容】（※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する）

現代社会においてオリンピック、サッカーワールドカップ、プロ野球・Jリーグ、Bリーグなどスポーツは多くの人々の中で広く親しまれ、また市場規模においても、スポーツ産業は世界各国で成長産業として進化が期待されています。

2024年のパリオリンピック・パラリンピック後、スポーツが大きな産業として経済活性化への期待が高まる中、スポーツマネジメントとはどのような概念・定義を持ち、スポーツの場面でどのような機能と役割を果たすことができるのか。

本科目ではスポーツ産業界で活躍するために必須となる基礎知識や能力を修得します。

【到達目標】

・スポーツマネジメントの基礎的な概略を知る
・スポーツ産業の歴史、動向、市場規模を知る
・スポーツマーケティング、スポンサーシップ、スポーツブランドの定義とその特性を知る
・スポーツイベントのプロデュース方法を知る
・プロスポーツビジネスの概略とスポーツの経済効果を知る
・諸外国のスポーツビジネスを知る

授業計画・内容	
1回目	授業全体の構成、進め方、評価についての説明 オリエンテーション
2回目	スポーツマネジメントの概念、定義、スポーツ産業の概念と市場規模について説明ができる。
3回目	スポーツ産業の過去・現在・未来について説明ができる。
4回目	スポーツマーケティングの構造について説明ができる。
5回目	スポーツイベントのマネジメント：オリンピック、サッカーW杯、地域活性化イベント等の事例紹介を知る。
6回目	スポーツ組織のマネジメント：各競技団体の組織の概略及び意思決定プロセスについて説明ができる。
7回目	スポーツクラブのマネジメント：総合型地域クラブ、民間スポーツクラブに関する課題について説明ができる。
8回目	1回から7回のまとめ
9回目	スポーツブランドについて：各メーカーのプロモーション戦略、事例紹介を通して説明ができる。
10回目	スポンサーシップについて：歴史的変遷と現状、オリンピックスポンサー等の事例紹介を通して説明ができる。
11回目	日本のプロスポーツについて：プロスポーツの分類、スポーツ選手の社会貢献活動、CSRについて説明ができる。
12回目	日本のプロスポーツについて：ドラフト制度について説明ができる。
13回目	日本のプロスポーツについて：プロスポーツ選手の生涯賃金とセカンドキャリアについて説明ができる。
14回目	アメリカ、ヨーロッパのプロスポーツビジネスについて：4大スポーツと欧州の比較について説明ができる。
15回目	期末テスト
準備学習 時間外学習	日頃のスポーツ情報に対して注視すること。配布された資料は復習の参考とすること。
評価方法	期末テスト80%、レポート10%、演習10%
受講生への メッセージ	本科目を受講する学生は、スポーツ産業にかかわる様々な事柄に問題意識を持ち、積極的に自ら学ぶ習慣を身につけてほしい。 また、昨今、スポーツ界を見渡すと国境ボーダレスになっています。 このような状況下、国際感覚を磨き、スポーツ産業界でリーダーになりたいという学生を希望する。

【使用教科書・教材・参考書】

叢文社（黒田次郎、石塚大輔、萩原悟一編）：「スポーツビジネス概論5」

2025年度 授業概要

学 科 ：スポーツマネジメントテクノロジー科

科目名（英）	スポーツマネジメント Sports Management	必修選択	選択必修	年次	1	担当教員	金崎 裕一郎
						実務経験	
		授業形態	講義	総時間（単位）	30 2	開講区分	前期
コース	プロスポーツマネジメント					曜日・時限	水曜日・2限

【授業の学習内容】（※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する）

本授業では、スポーツクラブの経営経験を持つ教員が、スポーツビジネスの実践的な知識を提供します。スポーツ市場の構造分析、収益モデル、顧客開発戦略、スポンサーシップ獲得法などの基礎知識を学びながら、実際のスポーツクラブの事例分析とグループプロジェクトに取り組みます。グループプロジェクトでは、仮想クラブチームの立ち上げから運営戦略の策定までを行い、実務に近い形でスポーツビジネスの全体像を体験的に学習します。特に、定期的に業界の第一線で活躍する実務家をゲスト講師として招き、最新の業界動向も学べる構成となっています。

【到達目標】

1. スポーツビジネスの基本概念を理解する。
2. クラブマネジメントの実践的な手法を学ぶ。
3. 地域社会との連携やマーケティング戦略について考察する。
4. 仮想のスポーツクラブを創設し、経営の視点から提案する能力を養う。

授業計画・内容	
1回目	オリエンテーション 講義の目的と概要説明 スポーツビジネスの基本概念と重要性
2回目	スポーツクラブの歴史と現代的意義 欧米型スポーツクラブの発展史 日本におけるクラブ文化の特徴 アメリカ型とヨーロッパ型のリーグ構造の違い
3回目	部活動の地域移行 地域移行の背景と課題 グループディスカッション:「部活動の地域移行は成功するのか？」今後アマチュアスポーツがクラブ化していくことを理解させる アマチュアスポーツがビジネス化していくことを説明
4回目	スポーツクラブの経営戦略 経営の基本的な考え方 仮想プロクラブの戦略構築の基礎 クラブの収益モデル構築 織運営の基本方針（主な競技 サッカー、野球、バスケット 等）
5回目	スポンサーと収益構造 スポーツクラブの収益源とスポンサーシップ ケーススタディ:成功事例の分析（各自好きなプロクラブの事例分析しパワポにまとめてグループで発表）
6回目	グループディスカッション①テーマ:「アマチュア（小中高）スポーツの全国大会は必要か？」「全国大会必要か？」のYouTubeの動画を見せ、グループディスカッションを行う 必要派、不必要派の意見を出させて議論する
7回目	スポーツマーケティングの基礎①ファンエンゲージメントとブランディングの重要性 プロクラブの主な取り組みを紹介し、各自興味がある、プロクラブの取り組みを調べ、発表させる
8回目	仮想プロスポーツチームプロジェクト①チーム分けとプロジェクト概要説明 ホーム地域の選定（地域特性の分析）
9回目	仮想プロスポーツチームプロジェクト①チーム分けとプロジェクト概要説明 クラブの理念・ミッション策定
10回目	スポーツマーケティングの基礎 SNSやデジタルマーケティングの活用 YouTubeでプロクラブのデジタルマーケティングの取り組みを見せる（例 日本代表TeamCam、選手SNS 等）
11回目	ゲストスピーカー①プロクラブフロントスタッフ プロクラブスタッフの講義
12回目	トップスポーツへの外資参入 外資の影響とメリット・デメリット レッドブルの大宮アルディージャ買収例を中心に分析
13回目	仮想プロスポーツチームプロジェクト② クラブエンブレムと経営戦略の考案 エンブレムの文化的・視覚的意味・チームの価値を反映したデザイン案作成
14回目	仮想プロスポーツチーム中間発表 各グループの進捗報告とフィードバック 時間設定をし、進歩状況の発表。発表に対するフィードバック（アドバイス）を行う
15回目	仮想プロスポーツチーム中間発表 各グループの進捗報告とフィードバック 時間設定をし、進歩状況の発表。発表に対するフィードバック（アドバイス）を行う
準備学習 時間外学習	本授業はプロジェクトベース学習（PBL）形式で実施 グループワークと個人ワークを適宜組み合わせて実施 実際のフィールドワークを重視するため、授業外の活動も評価対象 最終プレゼンテーションには外部審査員（投資家、起業家等）を招聘予定
評価方法	出席・積極性: 20% グループディスカッションの参加: 30% 仮想プロスポーツチームプロジェクト（プレゼン含む）: 50%
受講生へのメッセージ	スポーツの感動や興奮を生み出す舞台裏には、緻密なビジネス戦略と運営ノウハウが存在しています。本講義を通じて、単なる理論だけでなく、現場で活きるスキルを身につけることができます。特に、グループで取り組む仮想クラブチーム設立プロジェクトでは、マーケティング戦略の立案からチームを立ち上げる過程を疑似体験させ、プレゼンでの発表を行います。また、業界第一線で活躍するゲスト講師からの生きた知識は、教科書では得られない貴重な財産となるでしょう。 スポーツを「観る」「する」だけでなく、「創る」「支える」側に立ってビジネススキルという形に変えていきましょう。

【使用教科書・教材・参考書】

主要テキスト:『アメリカのスポンサーシップ戦略に学ぶスポーツマーケティング』川上祐司著

2025年度　授業概要

学　科　：スポーツマネジメントテクノロジー科

科目名（英）	進路指導 Career Guidance	必修選択	必修	年次	1	担当教員	各担任
						実務経験	
		授業形態	講義	総時間（単位）	30	開講区分	前期
コース	コース共通				2	曜日・時限	月曜日・4限

【授業の学習内容】（※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する）

2年間の学校生活について時系列で考え、1年生の前期ではクラス内で目標を立て、主体性と協調性を身につけるために学校・学科イベントに積極的に参加します。また、就職活動・資格取得に向けての準備を行うために、自らの進路について企業研究などを考える時間をつくります。

【到達目標】

・専門学校生活がスタートし、ルールを守り責任感を身につけることができる
・学園祭のブースを出店し、主体性と協調性を身につけることができる
・職業をイメージするために自分で働く場所の情報を調べるなど、就職に対して興味関心をもつ
・考える、聞く、発信することができるような安全な環境づくりを一人ひとりが取り組むことが出来る

授業計画・内容	
1回目	学校のルールを知り、2年間の学校生活をイメージすることが出来る(学生便覧)
2回目	個人の目標、クラスの目標を明確にし、前期の到達目標に対して行動指針を立てることが出来る
3回目	キャリアサポートアンケートの実施(個別面談に活用)、ITリテラシーについて学び正しいインターネットの活用ができる
4回目	自己分析、目的意識の明確化にし、自分の現状を知ることが出来る
5回目	学園祭の準備(主体性と協調性を身につける)
6回目	学園祭の準備②(主体性と協調性を身につける)
7回目	学園祭の準備③(主体性と協調性を身につける)
8回目	学園祭の振り返り、学生生活アンケート、スポーツ業界について知る①フィットネスクラブについて理解することが出来る
9回目	スポーツ業界について知る②パーソナル・トレーニングジムについて理解することが出来る
10回目	スポーツ業界について知る③チーム・ビジネスについて理解することが出来る
11回目	自己分析①目的意識の明確化にし、自分の現状を知る
12回目	自己分析②内容を評価、行動指針のフィードバックが出来る
13回目	企業研究①(自分が目指す業種について、企業を調べる)
14回目	企業研究②(自分が目指す業種について、業務内容を調べる)
15回目	前期の目標に対して、自己評価を行い、後期に向けての目標設定を立てることが出来る
準備学習 時間外学習	スポーツ業界のホームページやSNSサイトを見て、予習を行う
評価方法	・授業内評価(100%) ⇒出欠、授業態度、提出物で評価を行う
受講生へのメッセージ	スポーツ業界で働いていく上で、主体性・協調性を身につけ、考えることや傾聴すること、自ら発信することが出来るようにならないといけません。 そのためにクラス内で力を合わせて取り組む必要があります。 遅刻、欠席がないように受講してください

【使用教科書・教材・参考書】

適宜授業内で資料配布

2025年度　授業概要

学　科　：スポーツマネジメントテクノロジー科

科目名（英）	NSCA受験対策講座 Exam Preparation for NSCA	必修選択	選択必修	年次	2	担当教員	堀尾 祐史
						実務経験	
		授業形態	講義	総時間（単位）	30	開講区分	前期
コース	プロスポーツAIトレーナー				2	曜日・時限	月曜日・3限

【授業の学習内容】（※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する）

NSCA-CPTの資格合格を目標に授業を進めていく。NSCA-CPTの内容では、トレーナーの基礎知識(解剖学、運動生理学、バイオメカニクス)とさまざまなクライアントへの指導を想定した実践テクニック(エクササイズテクニック、プログラムデザイン)が大半を占める。本授業では、実践経験の少ない学生に対して、エクササイズテクニックやプログラムデザインの内容を軸に構成していく。

毎回の授業で試験内容を想定した問題を解き、学生たちの学習状況を把握する。問題を解く中で読解力を磨き、NSCAのエッセンスに慣れることでトレーナーとしての基礎能力を養う。

【到達目標】

①NSCA-CPTの資格取得
②NSCA-CPTのテキストをベースにトレーナーとしての基礎知識をつける。

授業計画・内容	
1回目	資格試験について(教科書の内容、試験内容の確認)、エクササイズサイエンスの理解度調査
2回目	エクササイズサイエンス①(テキスト第1-3章の内容)筋の構造、心肺系とガス交換、生体エネルギー機構
3回目	エクササイズサイエンス②(テキスト第4-6章の内容)バイオメカニクス、レジスタンストレーニング、有酸素性持久力トレーニングへの適応
4回目	エクササイズサイエンス③(テキスト第7-9章の内容)栄養学と心理学
5回目	プログラムデザイン①(テキスト第15章)レジスタンストレーニングのプログラムデザイン
6回目	プログラムデザイン②(テキスト第16章)有酸素性持久力トレーニングのプログラムデザイン
7回目	エクササイズテクニック③(テキスト第17章)プライオメトリクスとスピードトレーニング
8回目	エクササイズテクニック①(テキスト第12章の内容)柔軟性とストレッチ、自体重、バランスボールでのエクササイズ
9回目	エクササイズテクニック②(テキスト第13章の内容)バーベル、ダンベルでのエクササイズテクニック、補助のテクニック
10回目	エクササイズテクニック③(テキスト第14章)心臓血管系のトレーニングバリエーション
11回目	理解度調査
12回目	初回面談と評価①(テキスト第9章の内容)クライアントの面談と健康評価
13回目	初回面談と評価②(テキスト第10-11章の内容)体力評価の選択と管理、体力テスト法と評価基準
14回目	コンディショニングの概念①(テキスト第18章)前青年期の子ども、高齢者、妊婦のクライアント
15回目	コンディショニングの概念②(テキスト第19章)栄養と代謝に問題を抱えるクライアント
準備学習時間外学習	受験対策問題を配布
評価方法	①授業態度(出席率:欠席1回につき2点減点):10% ②レポート:30% ③理解度テスト:60%
受講生へのメッセージ	資格取得がトレーナーとしてのゴールではありません。 一方で、NSCA-CPTの資格内容は、将来トレーナーとして活躍する上で必要な知識が幅広く詰まった内容です。 まずは目先の目標として、資格取得を目指して勉強していきましょう。

【使用教科書・教材・参考書】

・特定非営利法人NSCAジャパン:「NSCAパーソナルトレーナーのための基礎知識 第2版・第3版」

2025年度 授業概要

学 科 ：スポーツマネジメントテクノロジー科

科目名（英）	WEBマーケティング Web Markething	必修選択	選択必修	年次	2	担当教員	福田健治
						実務経験	
		授業形態	講義	総時間（単位）	30 2	開講区分	前期
コース	スポーツマネジメントテクノロジー					曜日・時限	金曜日2限

【授業の学習内容】（※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する）

1. ウェブ解析と基本的な指標 2. 事業戦略とマーケティング解析 3. デジタル化戦略と計画立案 4. ウェブ解析の設計
5. インプレッションの解析 6. エンゲージメントと間接効果 7. ウェブサイトの解析 8. ウェブ解析のレポーティング

ウェブマーケティング実績22年、GAなどのアクセス解析ツールを活用し、企業の業務改善・売上向上などに従事。
ウェブ解析士の資格取得レベルの知識と共に、実際に企業に必要とされているウェブマーケティングの考え方やスキルに関する授業を実施いたします。

【到達目標】

ウェブマーケティング、ウェブ解析に関する以下の基礎知識を修得、共通の用語認識の基に、営業・制作・開発・社内ウェブマスター業務等の遂行・業務効率化を可能にすることを目指します。

授業計画・内容	
1回目	マーケティングの有用性と活用できる場を説明できる
2回目	顧客理解とペルソナ設計について説明ができる
3回目	ウェブ解析の重要性とウェブ解析士の仕事について説明ができる
4回目	ウェブ解析と基本的な指標（サイト表示の仕組みとアクセスログについて説明ができる）
5回目	事業戦略とマーケティング解析について説明ができる
6回目	事業戦略とマーケティング解析について説明ができる
7回目	デジタル化戦略と計画立案について説明ができる
8回目	マーケティング企画を立案できる
9回目	ウェブ解析の設計（解析の設計）について説明ができる
10回目	ウェブ解析の設計（コンバージョンの設計）について説明ができる
11回目	アクセス解析ツールの使い方が説明できる
12回目	インプレッションの解析について説明ができる
13回目	マーケティングツールを活用できる
14回目	定期試験
15回目	定期試験解説
準備学習時間外学習	特になし
評価方法	定期試験50% 提出物30% 出席点10% 平常点10%
受講生へのメッセージ	アクセス解析をはじめとしたウェブ解析データを活用し、デジタルマーケティングを通して事業の成果を導く人材、それがウェブ解析士です。 ウェブ解析士は、ウェブ解析スキルを身につけ、データを読み取り、正しい判断ができるスキルを修得することを目標としています。

【使用教科書・教材・参考書】

2025ウェブ解析士認定試験のテキスト

2025年度 授業概要

学 科 ：スポーツマネジメントテクノロジー科

科目名（英）	グローバルコミュニケーション3 Bレベル Global communication Ⅲ	必修選択	選択必修	年次	2	担当教員	ILC担当教員
		授業形態	演習	総時間（単位）	30 2	開講区分 曜日・時限	前期 火曜日5限、木曜日5限
コース	コース共通						

【授業の学習内容】（※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する）

日常生活での情報・説明やまとまりのある内容が理解できるようになる。また日常生活の話題について、出来事の説明・用件を伝えることができる。

【到達目標】

最も身近な分野（個人情報や家族、買い物等）に関する頻度の高い表現を理解し、文章を書くことができる。単純なトピックについて自分の意見を述べることが出来るようになる。母語話者とは一般的なディスカッションや会話の交渉できる。

授業計画・内容	
1回目	[WH-question]を使って相手の性格について尋ねる会話を練習する
2回目	「間接疑問文」を使って、人に質問をする、また質問に答える練習をする
3回目	自己紹介と他己紹介に関する会話を練習する
4回目	誰かと知り合いになるためのメールを書く
5回目	Time to Speak:・スピーキング：ロールプレイ・プレゼンテーション「良いリーダーになるために必要なこと」
6回目	現在進行形を使って持ち物について話す
7回目	現在完了形を使って持ち物やその機能などについて話す
8回目	聞き返しの表現や話題を変える際の表現を使ってディスカッションをする
9回目	欲しいものについての広告を書く
10回目	Time to Speak: ・スピーキング：ロールプレイ・プレゼンテーション「出かける時の持ち物について」
11回目	冠詞に注意しながら、自分の町について尋ねる、また質問に答える練習をする
12回目	[would/could/should]を使って、他の場所への生き方について話す
13回目	建物内の道案内の場面での会話を練習する
14回目	求人に対して志望動機を書く
15回目	Time to Speak:・スピーキング：ロールプレイ・プレゼンテーション「自分の町の人気な場所についてプレゼンをする」
準備学習時間外学習	オンデマンド授業
評価方法	授業内発表
受講生へのメッセージ	

【使用教科書・教材・参考書】

EVOLVE 3

2025年度 授業概要

学 科 ：スポーツマネジメントテクノロジー科

科目名（英）	グローバルコミュニケーション3 B＋レベル Global communication Ⅲ	必修 選択	選択 必修	年次	2	担当教員	ILC担当教員
		授業形態	演習	総時間（単位）	30 2	開講区分	前期
コース	コース共通					曜日・時限	火曜日5限、木曜日5限

【授業の学習内容】（※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する）

日常生活での情報・説明やまとまりのある内容が理解できるようになる。また日常生活の話題について、出来事の説明・用件を伝えることができる。

【到達目標】

最も身近な分野（個人情報や家族、買い物等）に関する頻度の高い表現を理解し、文章を書くことができる。単純なトピックについて自分の意見を述べることが出来るようになる。母語話者とは一般的なディスカッションや会話の交渉できる。

授業計画・内容	
1回目	[WH-question]を使って相手の性格について尋ねる会話を練習する
2回目	雇用者が求める人材について話す、 個人や他人の業績を説明する
3回目	自己紹介、他己紹介をする場面での会話を練習する
4回目	ブログの投稿を読む、投稿にコメントを書く
5回目	Time to Speak: ・スピーキング：ロールプレイ・プレゼンテーション「面接のロールプレイ」
6回目	流行に関する表現を使って、トレンドについて話す
7回目	接続詞を使って、料理の手順について話す
8回目	提案をする際の表現を使って、社交の場や料理を注文する場面での会話を練習する
9回目	調査についての結果を読む、また報告書を書く
10回目	Time to Speak: ・スピーキング：ロールプレイ・プレゼンテーション「レストランの改善策を計画する」
11回目	[too/enough]を使い、物事の「程度」について話す／時間とお金の相対的な重要性について話す
12回目	比較級の表現を使って、物事の価値や／価値を判断する基準について話す
13回目	謝罪が必要な場面での会話を練習する
14回目	商品のレビューを読む、書く
15回目	Time to Speak：・スピーキング：ロールプレイ・プレゼンテーション「批判的な商品レビューへの対応についてディスカッション」
準備学習 時間外学習	オンデマンド授業
評価方法	授業内発表
受講生へのメッセージ	

【使用教科書・教材・参考書】

EVOLVE 3

2025年度 授業概要

学 科 ：スポーツマネジメントテクノロジー科

科目名（英）	グローバルコミュニケーション3 Cレベル Global communicationⅢ	必修選択	選択必修	年次	2	担当教員	ILC担当教員
		授業形態	演習	総時間（単位）	30 2	開講区分	前期
コース	コース共通					曜日・時限	火曜日5限、木曜日5限

【授業の学習内容】（※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する）

リスニング、リーディング、スピーキング、ライティングの4技能を統合的に学び、興味関心のあることについての簡単な文章の読み書き、また買い物やその他の日常生活についての平易な会話ができるようになる。

【到達目標】

知人・家族について話すことができる。職場でのフォーマルなメールを読む、また書くことができる。
毎日していることについて話すことができる。ポッドキャストについての意見を読む、また書くことができる。
今していることについて話すことができる。サービス業界の会社へのメッセージを読む、また書くことができる。

授業計画・内容	
1回目	be動詞、代名詞の所有格を使って、知人・家族について話す
2回目	「～のもの」を表す表現を使って、所有物について話す
3回目	挨拶をして会話を始める練習をする、興味や驚きを表す表現を練習する
4回目	自己紹介をする。職場でのフォーマルなEメールを読む、書く
5回目	Time to Speak：スピーキング評価：ロールプレイ・プレゼンテーション「人と共通していることについて」・前期発表と連動する内容
6回目	[Wh-question]を練習する。一般動詞の疑問文、否定文を使って、習慣・ルーティンについて質問する、返答する
7回目	指示代名詞を使って、仕事や勉強をする空間について話す・質問する
8回目	意思疎通に問題があったことを説明する、繰り返しを求める表現を練習する
9回目	ポッドキャストについての意見を読む、書く
10回目	Time to Speak：スピーキング：ロールプレイ・プレゼンテーション「仕事や勉強のためのアプリについて発表する」・前期発表と連動する内容
11回目	「現在進行形」を使って、今まさに起こっていることについて話す
12回目	「現在進行形」「現在形」を練習する。スポーツ、運動について話す
13回目	知らない情報を人に尋ねたり、情報を読み取ったりできるよう、会話を練習する
14回目	サービスや会社に対するコメントを読む、書く
15回目	Time to Speak：スピーキング：ロールプレイ・プレゼンテーション「フィットネスプログラムを作る」・前期発表と連動する内容
準備学習時間外学習	オンデマンド授業
評価方法	授業内発表
受講生へのメッセージ	

【使用教科書・教材・参考書】

EVOLVE 2

2025年度 授業概要

学 科 ：スポーツマネジメントテクノロジー科

科目名（英）	グローバルコミュニケーション3 Dレベル Global communicationⅢ	必修選択	選択必修	年次	2	担当教員	ILC担当教員
		授業形態	演習	総時間（単位）	30 2	開講区分	前期
コース	コース共通					曜日・時限	火曜日5限、木曜日5限

【授業の学習内容】（※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する）

よく使われる日常的表現と基本的な言い回しは理解し、用いることもできる。
自分や他人を紹介することができ、個人的情報について、質問をしたり、答えたりできる。
会話相手がゆっくり、はっきりと話して、サポートをしてくれるなら簡単なやり取りをすることができる。

【到達目標】

個人的な情報について尋ねる、また述べることができる。個人的な経歴等のプロフィールを読む、また書くことができる。
友達や家族について表現することができる。友達や家族の画像にスレッドを入れたり、書かれている情報を読みとることができる。
家や家具について話すことができる。ホームシェアについてのメールを読む、書くことができる。

授業計画・内容	
1回目	be 動詞(am, are)を使って自己紹介（国籍や出身）する、または出身地を尋ねる会話を練習する
2回目	疑問代名詞[What]を使って、自分の個人情報を相手に伝え、また相手の情報を聞く
3回目	接客する側（clerk)、される側(guest)の表現を学ぶ
4回目	個人的な経歴等のプロフィールを読む・書く
5回目	Time to Speak：スピーキング：ロールプレイ・プレゼンテーション「パーティで新しい人に出会う」・前期発表と連動する内容
6回目	主語が三人称 [he, she, they]の時の、be動詞[is, are]の肯定文と疑問文の使い方を学ぶ
7回目	主語が三人称の時の、be動詞の否定文を学ぶ
8回目	日付の言い方、発音を学ぶ　年齢、誕生日に関する表現を学ぶ
9回目	位置を表す前置詞、接続詞[and]の使い方を学ぶ　短縮形の音（発音）について学ぶ
10回目	Time to Speak：スピーキング：ロールプレイ・プレゼンテーション「友達や家族についての情報を比較する」・前期発表と連動する内容
11回目	人称代名詞の所有格について学ぶ／名詞の所有を表す['s] と[s']の使い方を学ぶ
12回目	[it is]を使って、家具について話す
13回目	飲み物やお菓子を提供する、受け取る際の会話を練習する、分からない単語について質問する
14回目	ホームシェアについてのEメールのやり取りを読む、または、そのEメールを書く
15回目	Time to Speak：スピーキング：ロールプレイ・プレゼンテーション「新居の家具を選ぶ」・前期発表と連動する内容
準備学習時間外学習	オンデマンド授業
評価方法	授業内発表
受講生へのメッセージ	

【使用教科書・教材・参考書】

EVOLVE 1

2025年度　授業概要

学　科　：スポーツマネジメントテクノロジー科

科目名（英）	ゲーム分析5 Game analysis　V	必修選択	必修	年次	2	担当教員	佐藤　文彦
						実務経験	
		授業形態	講義	総時間（単位）	30 2	開講区分	前期
コース	プロスポーツAIトレーナー					曜日・時限	金曜日4・5限

【授業の学習内容】（※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する）

セイバーメトリクスの入門的内容として、成立から現代までの発展の歴史を学びます。セイバーメトリクスというと、OPSやFIP、wOBA等々の近年になって開発された新しい指標をイメージする人が多いです。これらもセイバーメトリクスの成果であり産物ではありますが、授業ではこうした指標が生まれた過程を理解することに重点を置きます。
また、「こういうことが新たに分かった」というセイバーメトリクスの知見をただ覚えるのではなく、根拠となったデータを見て理解できるようになることを目標とします。

【到達目標】

セイバーメトリクス

＜具体的な目標＞
目標①セイバーメトリクスの成立から現代までの発展の過程を理解する
目標②セイバーメトリクスの発展によってもたらされた知見を覚えるのではなく、根拠となるデータを見てその意味を理解できるようになる

授業計画・内容	
1回目	イントロダクション：セイバーメトリクスを学ぶ
2回目	野球の一般原理①：ピタゴラス勝率・得点期待値・得点価値
3回目	野球の一般原理②：野球のセオリーの見直し
4回目	野球の一般原理③：リーグ戦と短期決戦
5回目	選手の評価①：打撃・走塁
6回目	選手の評価②：守備・投球
7回目	選手の評価③：総合評価
8回目	成績の予測
9回目	セイバーメトリクスの転換①：トラッキングデータの導入
10回目	セイバーメトリクスの転換②：トラッキングデータがもたらしたもの
11回目	セイバーメトリクスの転換③：Baseball Savant
12回目	野球データの利用
13回目	テスト
14回目	テスト講評
15回目	セイバーメトリクスのこれから
準備学習 時間外学習	特に時間外の学習は求めませんが、興味のある人は講義中に紹介する書籍や文献を読んで理解を深めてください。
評価方法	・テスト ・出欠 ・授業中での質問への回答
受講生への メッセージ	初めは一部の好事家の楽しむものだったセイバーメトリクスも、現代では野球の一翼を担うまでに成長を遂げています。これを理解することは、野球に関わる人にとっては必須の知識となりつつあります。また、野球以外の競技に関わる人にとっても、転用可能なアイデアが多く含まれています。

【使用教科書・教材・参考書】

水曜社：「セイバーメトリクス入門　脱常識で野球を科学する」蛭川皓平（著），岡田友輔（監修）
（関連図書）技術評論社：「[プロ野球でわかる！]はじめての統計学」株式会社DELTA 佐藤 文彦/student（著），岡田 友輔（監修）

2025年度 授業概要

学 科 ：スポーツマネジメントテクノロジー科

科目名（英）	ストレングス＆コンディショニング2 Strength＆Conditioning Ⅱ	必修選択	選択必修	年次	2	担当教員	奈良崎 寛
						実務経験	
		授業形態	演習	総時間（単位）	30	開講区分	前期
コース	プロスポーツAIトレーナー				2	曜日・時限	月曜日1・2限

【授業の学習内容】（※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する）

以下の項目を【講義(理論)】と【実技(実践)】を通して学んでいく。講義は教室、実技はフットサル場で行う。
①サッカーに必要な体力（スピード・持久力・筋力・柔軟性・アジリティ）の理論と実践を学ぶ
②ゲーム形式でのトレーニングを通じて体力強化の方法を習得
③スピード・持久力・筋力・柔軟性・アジリティを統合したトレーニングメニューを作成・指導する
④体力トレーニングを通じて怪我を予防し、パフォーマンス向上を図る
⑤トレーニング理論・実践を理解し、状況に応じた適切なメニューを設計・指導するスキルを習得

【到達目標】

目標① サッカーに必要な体力の構成要素を理解し、トレーニング理論を説明できる
目標② ゲーム形式でのトレーニングを効果的に実践できる
目標③ 状況や選手の特性に応じた体力トレーニングメニューを作成・指導できる
目標④ 体力トレーニングを通じて選手のパフォーマンス向上や怪我予防ができる
目標⑤ トレーニング効果を評価し、改善点を見つけて修正できる

授業計画・内容	
1回目	講義 オープニング：心拍数測定法 （講義／グループワーク）
2回目	【実技】 ウォーミングアップとリカバリー サッカーで要求される体力
3回目	講義 サッカーで要求される体力分析・ウォーミングアップとリカバリー （講義／グループワーク）
4回目	講義 体力トレーニングの分類 運動生理学：酸素運搬系 （講義／グループワーク）
5回目	【実技】 有酸素性トレーニング
6回目	【実技】 体力テスト / 自体重トレーニング&無酸素性トレーニング
7回目	講義 サッカー選手の体力テスト / 自体重トレーニング （講義／グループワーク）
8回目	講義 トレーニング計画 指導実践プランニング （講義／グループワーク）
9回目	【実技】 サッカーの体力トレーニング （指導実践1）
10回目	【実技】 サッカーの体力トレーニング （指導実践2）
11回目	講義 指導実践振り返り 運動生理学 / エネルギー供給系 （講義／グループワーク）
12回目	講義 育成年代のトレーニング 運動生理学：筋 （講義／グループワーク）
13回目	【実技】 サッカーのコーディネーション / ランニングコーディネーション
14回目	講義 筆記テスト
15回目	講義 テスト返却(解説) クロージング
準備学習時間外学習	なし
評価方法	出席率：30% 実技評価：30% 筆記テスト：40%
受講生へのメッセージ	サッカーに必要な体力的要素を知り、現場で実践できるように頑張りましょう。

【使用教科書・教材・参考書】

参考書：『ゲーム形式で鍛えるサッカーの体力トレーニング』(ヤン・バングスボ著)

2025年度 授業概要

学 科 ：スポーツマネジメントテクノロジー科

科目名（英）	スポーツバイオメカニクス Sports Biomechanics	必修選択	選択必修	年次	2	担当教員	土橋恵秀
						実務経験	
		授業形態	講義演習	総時間（単位）	30 2	開講区分	前期
コース	コース共通					曜日・時限	水曜日・2限

【授業の学習内容】（※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する）

身体運動の仕組みについて、力学的な観点から学修していく。力学、と言われてしまうと自信のない生徒も多いと思われる。その点を考慮し、なるべく平易でわかりやすい授業を心がけるつもりではある。ただし、基礎的なことは覚えてもらうしかない、ということもあるので学生自身の努力もまた必要である。
単に力学的な観点だけでなく、身体運動という点から新たな知識を取り入れてもらうことも予定している。

【到達目標】

1. 力学の基礎概念を理解し、並進運動と回転運動のメカニズムを説明することができるようになる。
2. 人体に作用する力とモーメントを算出し、そのはたらきを説明することができるようになる。
3. 力学原理に基づき、身体運動を説明できるようになる。また、動作改善や障害予防と関連づけ、説明できるようになる。

授業計画・内容	
1回目	バイオメカニクスとは（イントロダクション）
2回目	ニュートンの法則 1
3回目	ニュートンの法則 2
4回目	ニュートンの法則 3
5回目	微分・積分
6回目	運動量の保存
7回目	前半の復習
8回目	回転運動の運動学 1
9回目	回転運動の運動学 2
10回目	回転運動のメカニズム 1
11回目	回転運動のメカニズム 2
12回目	後半復習
13回目	実験1
14回目	実験2
15回目	データ分析
準備学習時間外学習	解剖に関する基礎知識の復習、原理原則についての理解をする必要があるので、予習・復習をしっかり行ってください。
評価方法	レポート30% 出席50% 授業態度20%
受講生へのメッセージ	バイオメカニクスと聞くだけで苦手、と思う学生もいると思います。現代のスポーツ科学はどんどん発展していく中、この知識を持たずしてスポーツ界に関わることはもはやできる環境にはありません。 なるべく平易に、興味を持ってもらう様に授業を展開します。大事なことは、興味を持つこと、積極的に関わろうとすること。自分で考えることをあきらめないで、粘り強く取り組んでいくうちに、様々な発見があると思います。実験を経験することにより、最先端の研究がどのようなものなのか、実感をしてくれることを望んでいます。ディスカッションを多くし、相互的に理解できるような授業を展開します。

【使用教科書・教材・参考書】

授業毎、資料配布

2025年度 授業概要

学 科 ：スポーツマネジメントテクノロジー科

科目名（英）	スポーツマーケティング Sports Marketing	必修 選択	選択 必修	年次	2	担当教員	金崎 裕一郎
						実務経験	
		授業 形態	講義	総時間 （単位）	30 2	開講区分	前期
コース	スポーツマネジメントテクノロジー					曜日・時限	水曜日・1限

【授業の学習内容】（※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する）

本授業では、スポーツ関連のスタートアップ企業を立ち上げた実務経験を持つ教員が、理論と実践を融合させた教育を提供します。川上祐司著「アメリカのスポンサーシップ戦略に学ぶスポーツマーケティング」を主要テキストとし、スポーツビジネスにおけるマーケティングとスポンサーシップの体系的な知識を修得します。アメリカの先進的なスポーツマーケティング戦略を研究し、日本市場への効果的な応用方法や課題について深く考察します。授業では、スポーツを通じたブランド構築、ファンエンゲージメント戦略の立案、スポンサーシップのROI測定など、業界で即戦力となる実務的スキルの修得に重点を置きます。
また、理解を深めるためのケーススタディやグループワークを豊富に取り入れ、実践的な学びを促進します。さらに、グローバルスポーツビジネス分野で活躍する起業家をゲストスピーカーとして招いたオンライン講義も予定しており、最前線の知見と国際的な視点を学ぶ貴重な機会を提供します。

【到達目標】

1 スポーツマーケティングとスポンサーシップの基本概念と理論を理解する
2 アメリカと日本のスポーツマーケティングの違いと共通点を説明できる
3 スポンサーシップ効果を最大化するアクティベーション戦略を立案できる
4 スポーツを活用したブランディング戦略の策定方法を習得する
5 スポーツマーケティングの効果測定と評価方法を理解し実践できる

授業計画・内容	
1回目	スポーツマーケティング概論　授業ガイダンスとシラバス説明　スポーツマーケティングの定義と特性　一般マーケティングとスポーツマーケティングの違い　スポーツプロダクトの特徴と構造
2回目	アメリカスポーツビジネスの発展と構造　アメリカプロスポーツビジネスの歴史的発展　4大プロスポーツリーグ（NFL、NBA、MLB、NHL）のビジネスモデル　アメリカ大学スポーツ（NCAA）のマーケティング戦略　放送権ビジネスとスポーツコンテンツの価値　ケーススタディ：NFLのマーケティング戦略
3回目	日本のスポーツビジネス環境、現状と特徴　Jリーグ、プロ野球、Bリーグのマーケティング比較　欧米との市場成熟度の違いとギャップ 日本市場特有の課題と機会、ディスカッション：日本のスポーツマーケティングの発展方向性
4回目	スポーツスポンサーシップの基本戦略　スポンサーシップの定義と目的　スポンサーシップの種類と階層（タイトル、オフィシャル、サプライヤー等）　スポンサーシップ契約と権利関係　効果的なスポンサー選定のプロセス　ワーク：特定スポーツイベントのスポンサー構造分析
5回目	スポンサーシップアクティベーション戦略　アクティベーションの定義と重要性　アクティベーション投資と効果の関係性　成功するアクティベーションの要素　クリエイティブなアクティベーション事例研究　グループワーク：アクティベーション企画立案
6回目	ブランドとスポーツの結合理論　ブランドエクイティとスポーツの関係　イメージトランスファーの理論とメカニズム　ブランドとスポーツの親和性（フィット感）の重要性 スポーツを通じたブランドポジショニング戦略　ケーススタディ：成功したスポーツブランディング事例
7回目	B2Bマーケティングとスポーツホスピタリティ　B2Bマーケティングツールとしてのスポーツ活用法　企業VIPホスピタリティプログラムの設計　ビジネスネットワーキングとリレーションシップ構築　ホスピタリティ効果の最大化と測定　ワーク：B2B目的のスポーツホスピタリティプログラム企画
8回目	デジタルマーケティングとスポーツコンテンツ　デジタル時代のスポーツコンテンツ消費の変化　ソーシャルメディアとスポーツマーケティング　デジタルプラットフォームを活用したファンエンゲージメント　データドリブンのスポーツマーケティング　事例分析：デジタルに強いスポーツチーム・リーグの戦略
9回目	グローバルスポーツイベントとマーケティング　オリンピック、FIFAワールドカップのマーケティング戦略　グローバルスポンサーシッププログラムの構造　アンブッシュマーケティングとその対策　グローバルとローカルの融合戦略　ケーススタディ：オリンピックスポンサーの戦略分析
10回目	スポーツファンの心理と行動分析　スポーツファンの心理的特性と行動パターン　ファン層の区分とセグメンテーション手法　ファンエンゲージメントの段階と育成戦略 ロイヤルティプログラムとCRM戦略　ワーク：ファン育成のためのマーケティングプラン作成
11回目	スポーツマーケティングの効果測定　スポンサーシップ効果測定の手法と指標　メディアエクスポージャー分析とバリュエーション　認知度・態度変容の調査手法 スポンサーシップROIの計算方法　ケーススタディ：効果測定の成功事例
12回目	地域密着型スポーツマーケティング　地域活性化とスポーツチームの関係　地元企業とのパートナーシップモデル　地域アイデンティティとスポーツコミュニティの形成 スタジアム・アリーナを核とした街づくり　グループワーク：地域密着型マーケティング戦略の立案
13回目	スポーツコンテンツのメディア戦略　放送権ビジネスの構造と変化　OTTプラットフォームの台頭とその影響　コンテンツの多様化と価値最大化 デジタルメディア時代のコンテンツ戦略　事例研究：メディア戦略で成功したスポーツリーグ・団体
14回目	日本のスポーツマーケティングの未来展望　テクノロジーとスポーツマーケティングの融合　eスポーツの成長とマーケティングの可能性　日本市場におけるイノベーションの方向性　今後のスポーツマーケターに求められるスキルと知識　ディスカッション：日本のスポーツマーケティングの課題と可能性
15回目	総合演習と発表　ループプロジェクト最終発表　相互評価とフィードバック　ゲスト講師（業界関係者）によるレビュー　授業の総括と学びの振り返り キャリアパスとしてのスポーツマーケティング
準備学習 時間外学習	本授業はプロジェクトベース学習（PBL）形式で実施 グループワークと個人ワークを適宜組み合わせて実施 実際のフィールドワークを重視するため、授業外の活動も評価対象 最終プレゼンテーションには外部審査員（投資家、起業家等）を招聘予定
評価方法	授業参加度・ディスカッション貢献度：20% 中間レポート：20% ケース分析課題：20% グループプロジェクト：30% 最終試験：10%
受講生への メッセージ	授業では実際のケーススタディを多用し、理論と実践の融合を図る グループプロジェクトでは実在するスポーツチームやイベントのマーケティング戦略を分析・提案 可能な限り、スポーツマーケティングの実務経験者をゲスト講師として招聘 スポーツビジネス関連のイベントや施設見学などの実地学習も適宜取り入れる 最新の業界動向を反映するため、適宜授業内容をアップデート

【使用教科書・教材・参考書】

主要テキスト：『アメリカのスポンサーシップ戦略に学ぶスポーツマーケティング』川上祐司著

2025年度　授業概要

学　科　：スポーツマネジメントテクノロジー科

科目名（英）	ゼミ Seminar	必修選択	選択必修	年次	2	担当教員	ゼミ担当講師
						実務経験	
		授業形態	演習	総時間（単位）	30	開講区分	前期
コース	コース共通				2	曜日・時限	月曜日2・3限、水曜日4・5限

【授業の学習内容】（※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する）
現場活動の実行計画及び課題についての解決策を講じるための方法を討論する。

【到達目標】
・現場で実習を積み、経験を重ねるとともに課題を発見する
・課題の解決策を見つけ、実行し、評価を行う
・プレゼンテーション力を高める

授業計画・内容	
1回目	現場活動の実行計画及び課題についての解決策を講じるための方法を討議する。
2回目	現場活動の実行計画及び課題についての解決策を講じるための方法を討議する。
3回目	現場活動の実行計画及び課題についての解決策を講じるための方法を討議する。
4回目	現場活動の実行計画及び課題についての解決策を講じるための方法を討議する。
5回目	現場活動の実行計画及び課題についての解決策を講じるための方法を討議する。
6回目	現場活動の実行計画及び課題についての解決策を講じるための方法を討議する。
7回目	現場活動の実行計画及び課題についての解決策を講じるための方法を討議する。
8回目	現場活動の実行計画及び課題についての解決策を講じるための方法を討議する。
9回目	現場活動の実行計画及び課題についての解決策を講じるための方法を討議する。
10回目	現場活動の実行計画及び課題についての解決策を講じるための方法を討議する。
11回目	現場活動の実行計画及び課題についての解決策を講じるための方法を討議する。
12回目	現場活動の実行計画及び課題についての解決策を講じるための方法を討議する。
13回目	現場活動の実行計画及び課題についての解決策を講じるための方法を討議する。
14回目	現場活動の実行計画及び課題についての解決策を講じるための方法を討議する。
15回目	現場活動の実行計画及び課題についての解決策を講じるための方法を討議する。
準備学習時間外学習	現場での活動、学校内での活動問わず、目的意識を持って臨んでいきましょう
評価方法	授業内評価 出席状況、授業内態度、提出物による100%総合評価
受講生へのメッセージ	ゼミでの活動は、1年後社会に出た時に必ず役に立ちます。ぜひ、積極的に参加して多くのことを学んでください。

【使用教科書・教材・参考書】

適宜、資料など配布

2025年度　授業概要

学　科　：スポーツマネジメントテクノロジー科

科目名（英）	テクニック Training　Technic	必修選択	選択必修	年次	2	担当教員	井手　宏法
						実務経験	
		授業形態	演習	総時間（単位）	30 2	開講区分	前期
コース	プロスポーツAIトレーナー					曜日・時限	火曜日3限

【授業の学習内容】（※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する）

レジスタンスエクササイズにおけるプレパレーションエクササイズの基礎と実践を学ぶ。
レジスタンスエクササイズを実施する際の準備として、十分な筋の柔軟性や関節可動性、調整能力が要求される為、エクササイズの実施前に獲得しておくことが大切です。しかし、各要素不足によりエラーが見られた場合にその動作の見極めと修正が重要となります。本授業ではレジスタンスエクササイズで主に見られるエラーを考えながら、それらのエラーを起こさないエクササイズ、また修正エクササイズを学び、自身が実践できること、個人（グループにも）に指導できる知識を身につけていきます。

【到達目標】

・よく見られるエラーを把握し、その起因となる解剖学的・力学的要因を理解する
・クライアントに合わせたエラーを修正する為の、プログレッションとリグレッションを理解する
・レジスタンスエクササイズ導入前の適切な動作の理解と習得

授業計画・内容	
1回目	イントロダクション／プレパレーションエクササイズの前提種目について理解する
2回目	前提種目（足手のトライポッドとグラウンディング・グラビング・ブレーシング）を実践する
3回目	腰部・背部のエクササイズを実践、指導できる
4回目	足部・下腿部のエクササイズを実践、指導できる
5回目	大腿部・股関節のエクササイズを実践、指導できる
6回目	胸椎・肩甲帯のエクササイズを実践、指導できる
7回目	上肢のエクササイズを実践、指導できる
8回目	ケーススタディ実践①（SQにおけるエラーを見極め改善エクササイズができる）
9回目	ケーススタディ実践②（DL／RDLにおけるエラーを見極め改善エクササイズができる）
10回目	ケーススタディ実践③（LLにおけるエラーを見極め改善エクササイズができる）
11回目	ケーススタディ実践④（BP／PUにおけるエラーを見極め改善エクササイズができる）
12回目	ケーススタディ実践⑤（RWにおけるエラーを見極め改善エクササイズができる）
13回目	総復習
14回目	テスト
15回目	振り返り／解説
準備学習 時間外学習	・これまでの授業内容の復習（特に機能解剖学や生理学などの基礎教科） ・本授業内容の復習 ・学んだエクササイズを実践する
評価方法	・テスト ・授業態度（確認テストなども含む） ・出席状況
受講生への メッセージ	並行して学ぶ他の授業やこれまで学んできた内容とも上手くリンクさせながら進められたらと思っていますので、復習を忘れずに日々成長する態度で授業に臨んでほしいと思います。実技は自体重でのエクササイズが中心となりますが、相手に伝えられるようになる為に、それらのエクササイズを自らが実践できるよう身体を使って学んでください。

【使用教科書・教材・参考書】

特定非営利活動法人NSCAジャパン：「レジスタンスエクササイズ（プレパレーション）」
特定非営利活動法人NSCAジャパン：「ストレングス＆コンディショニングⅠ（理論編）」
特定非営利活動法人NSCAジャパン：「ストレングス＆コンディショニングⅡ（実技編）」
株式会社 文光堂：「トレーニングとリカバリーの科学的基礎」

2025年度 授業概要

学 科 ：スポーツマネジメントテクノロジー科

科目名（英）	デザイン2 Desing Ⅱ	必修選択	選択必修	年次	2	担当教員	島村紀博
						実務経験	
		授業形態	演習	総時間（単位）	60 4	開講区分	前期
コース	コース共通					曜日・時限	火曜日1・2限

【授業の学習内容】（※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する）

広報活動等に必要な、宣材の制作等をイラストレーター、フォトショップで基礎的なパーツの作り方や、応用としてイラストレーター、フォトショップを使用して広告や名刺の制作、写真の補正等の応用も学習する。

【到達目標】

イラストレーター、フォトショップを使用して広告や名刺のデータを制作して印刷物として入稿できるまでになる。

授業計画・内容	
1回目	photoshopのツールの紹介と、photoshopの基本的な使い方の説明、自分の写真を加工してphotoshopの機能を知る。
2回目	Photoshopの初歩の使い方をサンプル画像を使用して、ツールボックスの説明も兼ねて使用してみる。
3回目	Photoshopの合成課題、画像解像度の理解とペンツールを使用しての合成の基礎を覚える、野菜のパーツを切り抜いて組み合わせサンプル通りに合成する。
4回目	photoshopの合成課題レイヤーを理解する、レイヤーの描画モード、レイヤースタイル等レイヤーの機能を使用して合成を行う、又グラデーションの作り方を覚える。
5回目	photoshopの色塗り、ブラシの使い方やレイヤーの描画モード、選択範囲を使用して下絵を元に乗算を使用して着色していく、又カスタムブラシの作り方も覚える。
6回目	photoshopのスタンプツール、スタンプツールを使用して画像の画像の修正作業を行う。修正の際に必要になる歪みツールや変形ツールを覚える。
7回目	photoshopの影付け、用意した写真に影をつける、パスを引いて選択範囲を読み込み変形ツールを使用して、リアルなガウスのぼかしを使用して影付けを覚える。
8回目	photoshop合成と色合わせ、見本に合わせて、今までの技術を総合的に使用して合成と色合わせを行う、色合わせは調整レイヤーを使用して行う。
9回目	photoshopの合成課題、前回の課題に引き続き色わせと合成課題、今回は更に複雑な合成に挑戦する。その際に効率のよい合成技術を身に付ける。
10回目	前回の続きと作品のチェック、修正作業があれば修正を行う。
11回目	photoshop商品にロゴマークを入れる、変形ツールや選択範囲を上手く使い商品写真にロゴマークを入れ、商品の色を色相と彩度を利用して変更する。
12回目	前回の続きと作品のチェック、修正作業があれば修正を行う。
13回目	広告、ポスターの制作、印刷に入校時に必要なトリムマークや製作時に必要なガイドライン等を作成する。
14回目	広告、ポスターの制作、デザインを考えて文字の配置の基礎を学ぶ。
15回目	完成した名刺のプリントアウトを校正して提出
準備学習 時間外学習	
評価方法	■出席率 20% ■受講態度 30% ■各課題事に点数を付けた平均で評価いたします。50%
受講生へのメッセージ	広告やポスター、名刺など色々なもの制作に使用するソフトです。基礎をしつかりと学び活用していけるように努力をしてください。また制作する際にはショートカットを使用して作業効率上げるために忘れないようにしっかりとノートを取るようにしましょう。

【使用教科書・教材・参考書】

PC教室での授業（PC内にソフトが内蔵されています）

2025年度 授業概要

学 科 ：スポーツマネジメントテクノロジー科

科目名（英）	トレーニング科学 Training Science	必修選択	選択必修	年次	2	担当教員	片井 忠
						実務経験	
		授業形態	講義	総時間（単位）	30	開講区分	前期
コース	プロスポーツAIトレーナー					曜日・時限	火曜日・4限

【授業の学習内容】（※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する）
トレーナーとして必要なトレーニングの知識を得てプログラムの作成方法を学ぶ。

【到達目標】
様々なクライアントのニーズに応じてプログラムを作成出来るようになる。

授業計画・内容	
1回目	骨格筋系、神経系、内分泌と運動
2回目	トレーニング計画の立案、超回復について
3回目	筋力トレーニングのプログラム作成
4回目	パワー向上トレーニングのプログラム作成
5回目	持久力トレーニングの理論とプログラム作成①
6回目	持久力トレーニングの理論とプログラム作成②
7回目	スピード向上トレーニングのプログラム作成/柔軟性向上トレーニング及び、ウォームアップとクールダウン
8回目	特別な対象のためのプログラム作成①
9回目	特別な対象のためのプログラム作成②
10回目	スポーツ栄養学①
11回目	スポーツ栄養学②
12回目	トレーニング効果の測定と評価/運動指導の科学
13回目	対策週
14回目	筆記テスト
15回目	返却週
準備学習時間外学習	教科書を用いて、予習復習を実施する
評価方法	筆記テスト・授業態度・出席による総合評価
受講生へのメッセージ	毎回準備して授業に臨むこと、欠席しないように毎回出席をする

【使用教科書・教材・参考書】

大修館書店：JATIトレーニング指導者テキスト「実践編」「理論編」

2025年度 授業概要

学 科 ：スポーツマネジメントテクノロジー科

科目名（英）	進級制作 Promotion Work	必修選択	選択必修	年次	2	担当教員	各講師（各担任）
						実務経験	
		授業形態	実習	総時間（単位）	30	開講区分	前期
コース	コース共通				2	曜日・時限	月曜日2・3限、水曜日4・5限

【授業の学習内容】（※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する）

2年次の集大成として、ゼミ活動を通して研究した成果についてまとめ、発表を行う。

【到達目標】

・ゼミ活動を通して学んだことが分かりやすくまとめられている
・研究の内容を今後につながるものにする
・聴衆者にしっかりと伝わるように発表の練習を行う

授業計画・内容	
1回目	オリエンテーション
2回目	ゼミでの取り組み、研究成果についてPowerPointをと抄録を作成を行う。
3回目	ゼミでの取り組み、研究成果についてPowerPointをと抄録を作成を行う。
4回目	ゼミでの取り組み、研究成果についてPowerPointをと抄録を作成を行う。
5回目	ゼミでの取り組み、研究成果についてPowerPointをと抄録を作成を行う。
6回目	ゼミでの取り組み、研究成果についてPowerPointをと抄録を作成を行う。
7回目	ゼミでの取り組み、研究成果についてPowerPointをと抄録を作成を行う。
8回目	ゼミでの取り組み、研究成果についてPowerPointをと抄録を作成を行う。
9回目	ゼミでの取り組み、研究成果についてPowerPointをと抄録を作成を行う。
10回目	ゼミでの取り組み、研究成果についてPowerPointをと抄録を作成を行う。
11回目	ゼミでの取り組み、研究成果についてPowerPointをと抄録を作成を行う。
12回目	ゼミでの取り組み、研究成果についてPowerPointをと抄録を作成を行う。
13回目	ゼミでの取り組み、研究成果についてPowerPointをと抄録を作成を行う。
14回目	ゼミでの取り組み、研究成果についてPowerPointをと抄録を作成を行う。
15回目	研究した成果について、発表を行う。
準備学習時間外学習	発表に向けて準備をしていきましょう。
評価方法	発表のレポート提出により評価を行う。
受講生へのメッセージ	1年間のゼミ活動の成果を発表します。2年生の集大成として全員で取り組みましょう。

【使用教科書・教材・参考書】

特になし

2025年度　授業概要

学　科　：スポーツマネジメントテクノロジー科

科目名（英）	進路指導 Career Guidance	必修選択	必修	年次	2	担当教員	各担任
						実務経験	
		授業形態	講義	総時間（単位）	30 2	開講区分	前期
コース	コース共通					曜日・時限	金曜日・3限

【授業の学習内容】（※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する）

就職活動、業界研修、資格取得に向けての準備を行い、自らの進路について考える。業界の特性に応じた能力および社会人としての基盤能力を学び、身につけていく。
また現場実習・外部活動を通して、必要な能力を学び、身につけていきます。講義を通して、効果検証も行っていきます。

【到達目標】

・校外での活動を通して、社会人として自覚を持った行動ができる
・進路について明確にする
・現場や企業が求める能力を身につけ、就職活動に向けた準備をする

授業計画・内容	
1回目	オリエンテーションを行う。2学年としての取り組み、現場実習・外部活動に向けた準備について
2回目	現場実習・外部活動を行う上での注意点
3回目	職業観について、目指す業界における人物像について考える
4回目	専門職業に向けた準備①社会人基礎力について
5回目	専門職業に向けた準備②前を踏み出す力Actionについて考える、グループディスカッション
6回目	専門職業に向けた準備③考え抜く力シンギングについて考える、グループディスカッション
7回目	専門職業に向けた準備④チームで働く力チームワークについて考える、グループディスカッション
8回目	専門職業に向けた準備⑤自分たちが考える社会人基礎力についてまとめ・グループ発表
9回目	SNSについて① 各種SNSにおいてビジネスでの活用方法と利用するにあたっての注意点を知る
10回目	SNSについて② 各種SNSにおいてアプリを活用とした、業界のトレンドと活動について学ぶ
11回目	ビジネスマナーについて、実習参加にあたって挨拶や身だしなみ、立ち居振る舞いについて学ぶ
12回目	事例検討①実践現場での報告、グループワーク
13回目	事例検討②実践現場での課題点・問題点、グループワーク
14回目	事例検討③実践現場での課題点・問題点における解決方法、グループワーク
15回目	まとめ、事例検討発表
準備学習 時間外学習	現場実習・外部活動において、常に問題意識を持ち取り組んでいく 日頃の生活から社会人に向けた行動・言動を心がけて行動する
評価方法	出席状況、授業態度、提出物による総合100%で評価を行う
受講生への メッセージ	現場実習・外部活動へ懸命に取り組み、先を見据えた行動をしていきましょう また、何をするにも考えて行動をすること、相手のことを考えて意識高く取り組んでください。

【使用教科書・教材・参考書】

適宜、授業内で資料を配布

2025年度 授業概要

学 科 ：スポーツマネジメントテクノロジー科

科目名（英）	NSCA-CSCS受験対策講座 Exam Preparation for CSCS	必修選択	選択	年次	4	担当教員	鈴木 康信
						実務経験	
		授業形態	講義	総時間（単位）	30 2	開講区分	前期
コース	プロスポーツAIトレーナー					曜日・時限	火曜日3・4限

【授業の学習内容】（※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する）

全米ストレングス&コンディショニング協会（NSCA）認定ストレングス&コンディショニングスペシャリスト（CSCS）ほか、日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナーの資格を持ち、子ども～高齢者、初心者から日本代表アスリートクラスまでのトレーニング指導経験がある講師が資格取得までの学習法を紹介する。模擬問題を数多く解くことで、資格取得に向けた基本的な知識を理解し、確実に正答できる力を養うことを目的としている。

【到達目標】

ストレングス&コンディショニングスペシャリストとしての必要な知識を理解し、CSCS認定試験に合格する

授業計画・内容	
1回目	オリエンテーション
2回目	レジスタンストレーニングためのプログラムデザイン（1）
3回目	レジスタンストレーニングためのプログラムデザイン（2）
4回目	プライオメトリックトレーニングのためのプログラムデザインとテクニック
5回目	スピードおよびアジリティートレーニングのためのプログラムデザインとテクニック
6回目	有酸素持久力トレーニングのためのプログラムデザインとテクニック
7回目	ピリオダイゼーション
8回目	ウォームアップと柔軟性トレーニング
9回目	リハビリテーションとリコンディショニング
10回目	テストの選択と実施の原則
11回目	選択したテストの実施、スコアの記録、解釈
12回目	施設のデザインと、レイアウト、組織化
13回目	施設のポリシー、手順、法的問題
14回目	テスト
15回目	フィードバック
準備学習時間外学習	次回の授業範囲の予習・復習（教科書の読み込み）
評価方法	定期テスト60%　授業内評価40%
受講生へのメッセージ	国際ライセンス取得を目指し、本気で勉強できる学生を全力で応援したいと思います！！

【使用教科書・教材・参考書】

特定非営利活動法人NSCAジャパン：「NSCA決定版ストレングストレーニング&コンディショニング　第4版」

2025年度　授業概要

学　科　：スポーツマネジメントテクノロジー科

科目名（英）	PV・モチベーションビデオ Promotion & Motivation Video	必修選択	必修	年次	4	担当教員	永尾　雄一
						実務経験	
		授業形態	演習	総時間（単位）	30 2	開講区分	前期
コース	コース共通					曜日・時限	

【授業の学習内容】（※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する）

モチベーションビデオとは、スポーツ競技場面において、アスリート個人やチームのパフォーマンス向上を目的に、視聴するアスリートやチーム自身の映像を中心に、文字や音楽なども用いて編集作成されるビデオである。スポーツ競技場面においては、スポーツアナリストが作成を担当する機会も多いことから、効果的な作成方法や利用方法を、理論的背景も含めて理解し実践するスキルが求められる。
本講座では、スポーツにおける映像サポートスタッフであり、スポーツ心理学の専門性も有する技術者が講師となり、効果的にモチベーションビデオを作成・活用するための実践力を修得することを目指す。

【到達目標】

スポーツ競技現場においてパフォーマンス向上に資するサポート法略のひとつであるモチベーションビデオについて、理論的背景の学習や制作実習を通して、効果的な作成や活用を実践できる知識と技術を修得する。
＜具体的な目標＞
・スポーツ映像編集の実践技術を修得する
・モチベーションビデオの「作り方」を修得する
・モチベーションビデオの「使い方」を理解する

授業計画・内容	
1回目	【①基本を知る】 オリエンテーション　モチベーションビデオとは
2回目	【①基本を知る】 期待される効果と理論的背景
3回目	【①基本を知る】 基本的な編集操作方法
4回目	【①基本を知る】 例題を用いた作成実習
5回目	【①基本を知る】 設計図としての絵コンテ
6回目	【②作り方を知る】 素材の収集と管理
7回目	【②作り方を知る】 "言葉"を考える
8回目	【②作り方を知る】 音楽の探し方・選び方
9回目	【②作り方を知る】 ストーリーの考え方～スポーツ心理学的知見を活かした"見立て"
10回目	【②作り方を知る】 統一テーマでの模擬作成実習
11回目	【③使い方を知る】 目的を達成するための素材集め
12回目	【③使い方を知る】 何のために作るのか　～目的ではなく手段であること
13回目	【③使い方を知る】 作成実習　自由設定テーマでのモチベーションビデオ作成
14回目	【③使い方を知る】 作成実習　自由設定テーマでのモチベーションビデオ作成
15回目	【③使い方を知る】 作成発表　まとめ
準備学習時間外学習	●PC（主にMac）を用いて映像編集作業を行うため、PCの基本的操作を修得していることが望ましい。
評価方法	講義の後半に各自でテーマ設定したモチベーションビデオ作成実習を行う。作成されるビデオの内容及び実習態度を通じて、講義内容の修得状況を評価する。 さらに、最終講義終了後の総合レポートにおいても評価を行う。 ①モチベーションビデオ作成（40%） ②実習態度（40%） ③総合レポート（20%）
受講生へのメッセージ	特徴：日本代表レベルからアマチュアレベルまで様々なカテゴリーのスポーツ競技場面において、作成・提供のサポートを長年行なっている実践経験をもとに講義を実施します。理論だけではなく、実際のスポーツ競技場面で蓄積された経験からの知見も提供することを目指します。

【使用教科書・教材・参考書】

特にありません

2025年度　授業概要

学　科　：スポーツマネジメントテクノロジー科

科目名（英）	グローバルコミュニケーションB Global CommunicationB	必修選択	選択必修	年次	4	担当教員	Cathy Sun
						実務経験	
		授業形態	演習	総時間（単位）	60 4	開講区分	後期
コース	コース共通					曜日・時限	水曜日3・4限

【授業の学習内容】（※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する）

【授業内容】
前年度の英語力をさらに強化し、リスニング、リーディング、スピーキング、ライティングの4技能を確実に定着させ、IELTS受験を目指す。

【到達目標】
①英語の語彙力を高め、リスニング、リーディング、スピーキング、ライティングの力を身につけることができる。
②IELTSを受験するための力を身につけることができる。

授業計画・内容	
1～2回目	4技能のレベルチェック。
3～4回目	単語のテスト、語彙力チェック。リスニング、リーディング強化。
5～6回目	単語のテスト、語彙力チェック。リスニング、リーディング強化。
7～8回目	ライティングのレベルチェック。
9～10回目	ライティングのレベルチェック。
11～12回目	スピーキングのレベルチェック。
13～14回目	スピーキングのレベルチェック。
15～16回目	IELTS模試に挑戦。
17～18回目	IELTS模試に挑戦。
19～20回目	苦手分野の克服。
21～22回目	苦手分野の克服。
23～24回目	4技能の総合チェック。
25～26回目	4技能の総合チェック。
27～28回目	評価試験
29～30回目	まとめ
準備学習時間外学習	
評価方法	評価試験100%
受講生へのメッセージ	IELTS受験に挑戦するための力を身につけていきましょう！

【使用教科書・教材・参考書】

2025年度　授業概要

学　科　：スポーツマネジメントテクノロジー科

科目名（英）	ゲーム分析8 Game analysis Ⅷ	必修選択	選択必修	年次	4	担当教員	藤井　透
						実務経験	
		授業形態	演習	総時間（単位）	60 4	開講区分	前期
コース	プロスポーツAIトレーナー					曜日・時限	木曜日3・4限

【授業の学習内容】（※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する）

この授業では、スポーツにおけるゲーム分析の基礎から実践までを学びます。映像分析ソフトウェアを用いた映像分析を中心に、選手・チームのパフォーマンスを可視化し、戦術的提案を行う力を育成します。

【到達目標】

映像撮影、キャプチャー、管理、分析、共有の知識と基本的なオペレーションを習得する。
アナリストに求められる基礎スキルと実務能力を身につけ、競技現場においてチームをサポートする実践力を養う。
Dartfishソフトウェアを活用し、スポーツアナリティクスの基礎理解を深める。
各単元終了時には理解度チェックを行い、学習の定着を図る。

授業計画・内容	
1回目	ゲーム分析の基礎と役割
2回目	タギングと分類の考え方
3回目	タギングパネルの設計①基礎
4回目	タギングパネルの設計②階層の追加
5回目	タギングの実践（個人）
6回目	タギング結果の可視化
7回目	ポジショニングとスペース分析
8回目	チーム戦術の分析①（攻撃）
9回目	チーム戦術の分析②（守備）
10回目	相手チームの分析
11回目	チーム比較と対策案の立案
12回目	モンタージュプレイリスト作成と分析発表準備①
13回目	モンタージュプレイリスト作成と分析発表準備②
14回目	ゲーム分析プレゼンテーション
15回目	総まとめテスト＆ふりかえり
準備学習時間外学習	試合映像ただ閲覧するだけではなく、印象に残ったシーンを詳しくメモをする。
評価方法	授業内課題（40%）課題提出が期限内で内容が適切 【データの正確性（20%）／分析手法の適用（20%）】 分析レポート（30%）基本的な用語と概念を理解 【データ収集・整理の適切さ（10%）／分析方法の適用（10%）／データに基づく意見の提言（10%）】 プレゼンテーション（30%）論理的に構成され、映像も的確 【分析内容の明確さ・論理性（15%）／プレゼンテーションスキル（15%）】
受講生へのメッセージ	座学と実習を組み合わせ、個人・グループワークを通じて実践力を養成。各回の理解度チェックと最終プレゼンにより定着を図る授業を実施します。

【使用教科書・教材・参考書】

myDartfish Pro S、映像教材（試合動画など）、プレゼン資料（PowerPoint）

2025年度　授業概要

学　科　：スポーツマネジメントテクノロジー科

科目名（英）	ストレングス＆コンディショニング5 Strength and Conditioning V	必修選択	選択必修	年次	4	担当教員	江上　猛
						実務経験	
		授業形態	演習	総時間（単位）	30	開講区分	前期
コース	プロスポーツAIトレーナー				2	曜日・時限	火曜日1・2限

【授業の学習内容】（※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する）

世界基準となるNSCA資格「CSCS」合格する事を目標とし、そのために本講座では合格に不可欠となる基礎知識の復習、さらなる習得を目指す。学習内容としては筆記試験合格に必要な知識は基よりその試験出題内容の理解を深めるするうえで必要となる実技におけるエクササイズ動作やポイント、さらには補助テクニック等SCコーチが現場指導で知っておくべき技術の習得を並行に進め、実践的かつ現場での指導やトレーニングプログラムの考え方を学ぶ。この基礎が出来たうえでプログラムデザインへの発展に繋げる。

【到達目標】

人間の筋骨格活動、運動負荷、刺激を加えることで変化する生理的応答を理解し、機能解剖学的に効率的で傷害予防が可能となるなエクササイズ指導が実行出来る基礎的専門知識と技術の習得を目標とし、CSCS合格に相応する理解度を目指す。

授業計画・内容	
1回目	フリーウェイトおよびマシーントレーニングのためのエクササイズテクニック　座学
2回目	フリーウェイトおよびマシーントレーニングのためのエクササイズテクニック　実技
3回目	フリーウェイトおよびマシーントレーニングのためのエクササイズテクニック②　座学
4回目	フリーウェイトおよびマシーントレーニングのためのエクササイズテクニック②　実技
5回目	フリーウェイトおよびマシーントレーニングのためのエクササイズテクニック③　座学
6回目	フリーウェイトおよびマシーントレーニングのためのエクササイズテクニック③　実技
7回目	レジスタンストレーニングのためのプログラムデザイン　座学
8回目	レジスタンストレーニングのためのプログラムデザイン　座学
9回目	レジスタンストレーニングのためのプログラムデザイン②　座学
10回目	代替的様式および非伝統的用具のためのエクササイズテクニック　座学
11回目	代替的様式および非伝統的用具のためのエクササイズテクニック　実技
12回目	プライオメトリクス　座学
13回目	プライオメトリクス　実技
14回目	スピードおよびアジリティートレーニング　実技
15回目	テスト
準備学習時間外学習	ストレングス＆コンディショニング（第4版）の読本、その出版本に基づいての自身のトレーニングの習慣
評価方法	ミニテスト、レポート、定期テスト
受講生へのメッセージ	トレーナー草創期より現場で活動してきました。現在では一人の選手、チームを支えるべく様々な専門職が参加し、協力しています。皆さんが現場で活躍する時を迎えた時、多角的な分析が行えるようになるためにもCSCS取得を達成し、選手理解、現場理解がより深めれらるアナリストを目指しましょう。

【使用教科書・教材・参考書】

2025年度 授業概要

学 科 ：スポーツマネジメントテクノロジー科

科目名（英）	スポーツビジネス3/インストラクション4 Sports BusinessⅢ/instructionⅣ	必修選択	選択必修	年次	4	担当教員	金崎 裕一郎
						実務経験	
		授業形態	講義	総時間（単位）	45 3	開講区分	前期
コース	スポーツマネジメントテクノロジー					曜日・時限	月曜日1限

【授業の学習内容】（※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する）

本授業では、スポーツクラブの経営経験を持つ教員が、スポーツビジネスの実践的な知識を提供します。また、本講義担当者の修士論文資料を活用します。
講義内容は、日本のスポーツ文化の歴史的背景と現状を理解した上で、スポーツの産業化と地域創生の関係性について探究します。日本とドイツなど海外のスポーツ文化の比較分析を通じて、持続可能な社会におけるスポーツビジネスの可能性と課題を考察します。スポーツを単なる教育活動や競技活動としてだけでなく、地域社会や経済に価値をもたらす文化的産業として捉え直し、新たなビジネスモデルの構築に向けた知識と視点を養成します。

【到達目標】

1 日本のスポーツ文化の歴史的背景と社会的位置づけを理解する
2 現代日本のスポーツシステム（特に部活動）の課題を把握する
3 国際比較を通じてスポーツの多様な価値と可能性を認識する
4 SDGsの視点からスポーツと地域創生の関係性を理解する
5 スポーツの産業化に向けた具体的なビジネスモデルを提案できる

授業計画・内容	
1回目	イントロダクション－スポーツと社会・経済の関係性　授業ガイダンスとシラバス説明　スポーツの多面的価値（教育的、文化的、経済的価値）　日本におけるスポーツビジネスの現状と課題　スポーツを通じた社会的インタラクション（相互作用）の重要性　ディスカッション：スポーツと社会の関わりについての自己経験の共有
2回目	日本のスポーツ文化の形成と特徴　明治期以降の体育（スポーツ）教育の導入史　軍事教育と高度経済成長期におけるスポーツの役割　日本独自のスポーツ文化の形成（体罰、上下関係、連帯責任）　グループワーク：日本のスポーツ文化の特徴と課題の整理
3回目	スポーツの国際比較－日本とドイツの事例　競技スポーツ志向の日本とライフスポーツ志向のドイツ　ドイツのスポーツクラブ文化とコミュニティ形成　サッカー文化の国際比較（地域密着型クラブの役割）　ケーススタディ：ドイツのスポーツクラブと地域社会の関係
4回目	部活動の現状と課題、日本の部活動システムの特徴と問題点、「監督化」する日本のスポーツ指導者、過度な競技志向がもたらす弊害 ディスカッション：部活動経験と今後のあり方について
5回目	日本のスポーツ構造と社会的背景、メディアとスポーツの関係性、罰でコントロールする日本のスポーツ指導、日本の部活動文化とビジネスカルチャーの関連性 グループワーク：日本のスポーツ構造の問題点と改善案
6回目	スポーツに関わる人々の意識と行動、スポーツ指導者の意識と行動パターン、保護者の意識と期待値、子どものスポーツ活動に対する社会的期待 事例分析：アンケート・ヒアリング調査から見るスポーツ関係者の意識
7回目	グローバル化とスポーツの変容　スポーツのグローバル化の意味を問い直す　グローバル市場におけるスポーツコンテンツの価値　国際的なスポーツビジネスモデルと日本市場の特殊性　ディスカッション：グローバル化の中での日本型スポーツビジネスの可能性
8回目	地方創生とスポーツの可能性　地方回帰（ローカルシフト）の潮流　地域コミュニティの課題とスポーツの役割　スポーツを核とした地域活性化の事例 フィールドワーク計画：地域スポーツ資源の調査方法
9回目	SDGsとスポーツビジネス　SDGsの基本概念とスポーツとの関連性　スポーツを通じた持続可能な社会づくり　企業のCSR・CSV活動とスポーツの融合 グループワーク：SDGsの視点からスポーツビジネスを再考する
10回目	地域コミュニティとスポーツの共創価値　地域と企業のコラボレーションによる価値創造　スポーツを通じた地域ブランディング　地域資源としてのスポーツ施設・イベントの活用法　ケーススタディ：成功している地域スポーツビジネスの分析
11回目	プロスポーツの人材育成モデル　FIFA・Jリーグの人材育成ビジネスモデル　育成型クラブチームの経営戦略　人材育成を核としたビジネス展開 ディスカッション：日本における人材育成型スポーツビジネスの可能性
12回目	スポーツ文化の変革と産業化、野球文化からサッカー文化への移行とその意味、新しいスポーツ文化の創造と経済効果、eスポーツなど新興スポーツ市場の可能性 グループワーク：これからの日本のスポーツ文化と産業の方向性
13回目	スポーツ産業化への新たなビジネスモデル、スポーツの持続可能なビジネスモデルの要件、地域密着型スポーツビジネスの構築方法、多様なステークホルダーとの連携戦略　ケーススタディ：革新的なスポーツビジネスモデルの分析
14回目	スポーツビジネスプラン策定ワークショップ、ビジネスプランの基本要素と構成、地域特性を活かしたスポーツビジネスの立案、実現可能性と社会的インパクトの検討 グループワーク：スポーツビジネスプランの作成
15回目	プレゼンテーションと総括　グループごとのビジネスプラン発表　相互評価とフィードバック　授業全体の振り返りと学びの統合 スポーツビジネスの未来展望と受講生の役割
準備学習 時間外学習	本授業はプロジェクトベース学習（PBL）形式で実施 グループワークと個人ワークを適宜組み合わせて実施 実際のフィールドワークを重視するため、授業外の活動も評価対象 最終プレゼンテーションには外部審査員（投資家、起業家等）を招聘予定
評価方法	授業参加度・ディスカッション貢献度：20% 中間レポート：20% グループワーク・フィールドワーク：30% 最終プレゼンテーション・ビジネスプラン：30%
受講生へのメッセージ	スポーツの感動や興奮を生み出す舞台裏には、緻密なビジネス戦略と運営ノウハウが存在しています。本講義を通じて、単なる理論だけでなく、現場で活きるスキルを身につけることができます。特に、グループで取り組む仮想クラブチーム設立プロジェクトでは、マーケティング戦略の立案からチームを立ち上げる過程を疑似体験させ、プレゼンでの発表を行います。また、業界第一線で活躍するゲスト講師からの生きた知識は、教科書では得られない貴重な財産となるでしょう。 スポーツを「観る」「する」だけでなく、「創る」「支える」側に立ってビジネススキルという形に変えていきましょう。

【使用教科書・教材・参考書】

主要教材：金崎裕一郎「スポーツの産業化と持続可能な地域作り」（修士論文）
講義ごとに資料を配布

2025年度　授業概要

学　科　：スポーツマネジメントテクノロジー科

科目名（英）	ゼミ4 SeminarⅣ	必修選択	選択必修	年次	4	担当教員	金崎　裕一郎
						実務経験	
		授業形態	演習	総時間（単位）	30 2	開講区分	前期
コース	コース共通					曜日・時限	月曜日・3限

【授業の学習内容】（※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する）

本ゼミでは、Project-Based Learning (PBL) を軸に、実際のスポーツビジネスプロジェクトに取り組みながら実践的な知識とスキルを養成します。例えば高校サッカーフェスティバルの企画・運営やタイのスポーツチームとの国際交流イベントなど、具体的なプロジェクトに挑戦することで、理論と実践の両面からスポーツビジネスを学びます。オンライントークセッションやフィールドワークも取り入れ、多角的な学習環境を提供します。

【到達目標】

1PBLを通じて実践的なプロジェクトマネジメント能力を身につける
2スポーツイベント企画・運営の具体的なノウハウを修得する
3グローバな視点でのスポーツビジネス展開について理解を深める
4チームワークとリーダーシップスキルを向上させる
5業界関係者とのネットワーク構築の基礎を固める

授業計画・内容	
1回目	オリエンテーションとプロジェクト概要　ゼミの目的と学習アプローチの説明　PBL（Project-Based Learning）の進め方の解説
2回目	プロジェクト初期計画と役割分担　プロジェクトマネジメントの基礎理論　プロジェクト計画書の作成方法とツール紹介　グループワーク：プロジェクトの目標設定とスコープ定義　役割分担とタイムライン作成　課題：担当領域の詳細リサーチ
3回目	スポーツイベントの企画と予算計画　スポーツイベント企画の成功事例分析　予算計画の立て方と資金調達の考え方　グループワーク：企画書の骨子作成と予算シミュレーション　課題：企画書ドラフトの完成
4回目	オンライントークセッション①「成功するスポーツイベントの条件」　スポーツイベント運営の専門家をゲストに招いたオンラインセッション　イベント企画・運営の実務ポイントと失敗から学んだ教訓　Q&Aセッションと各グループの企画に対するフィードバック　課題：フィードバックを踏まえた企画書の修正
5回目	ステークホルダー分析とコミュニケーション戦略　スポーツイベントのステークホルダーマップ作成　効果的なコミュニケーション計画の立案　高校サッカー関係者／タイのスポーツチームとの連絡方法と注意点　グループワーク：連絡文書・企画書の作成　課題：ステークホルダーへの初期コンタクト準備
6回目	マーケティングとプロモーション戦略　スポーツイベントのマーケティング戦略　SNS活用とデジタルプロモーションの実践方法 グループワーク：プロモーション計画の策定、課題：プロモーション素材の作成開始
7回目	中間プレゼンテーションと相互評価　各グループのプロジェクト進捗報告　実現可能性と課題の整理　他グループからのフィードバックと質疑応答　プロジェクト計画の修正点の明確化　課題：フィードバックを踏まえた改善計画の作成
8回目	フィールドワーク事前準備「スポーツビジネス研修」　フィールドワークの目的と成果物の確認　訪問先（スポーツ施設・関連企業・団体）の概要説明　見学のポイントと質問事項の整理　調査シートの作成　課題：事前調査レポートの提出
9回目	フィールドワーク実施「スポーツビジネス研修」　スポーツ施設・関連企業への訪問　現場スタッフへのインタビュー 運営体制や収益構造の調査　成功要因と課題の特定、課題：フィールドノートの整理
10回目	フィールドワーク振り返りとプロジェクト統合　各グループのフィールドワーク成果共有　学びの整理とプロジェクトへの応用検討　実践知の体系化　グループワーク：プロジェクト計画の更新　課題：フィールドワークレポートの作成
11回目	オンライントークセッション②「国際スポーツビジネスの展開方法」　国際スポーツビジネスの専門家（特にアジア圏に詳しい実務家）によるセッション　異文化間のスポーツビジネスにおける留意点　タイのスポーツ文化と市場特性　Q&Aセッションと国際交流プロジェクトへのアドバイス課題：国際要素を踏まえたプロジェクト調整
12回目	リスクマネジメントとコンティンジェンシープラン　スポーツイベントにおけるリスク分析　安全管理と危機対応計画の立案　法的考慮事項と保険の必要性　グループワーク：リスク対応策の策定　課題：コンティンジェンシープランの完成
13回目	プロジェクト実行計画の最終調整　実施スケジュールの詳細確認　リスク管理と進捗モニタリング手法　予算の最終チェックと調整　当日の運営体制の確認 課題：最終プレゼンテーションの準備
14回目	最終プレゼンテーション　各グループによる最終プロジェクト提案発表　実現可能性とビジネスとしての持続性の評価　外部関係者（スポーツ関連企業・高校サッカー関係者など）を招いての講評　今後の実施に向けた課題の明確化課題：フィードバックの整理と反映
15回目	プロジェクト総括と後期への展望　前期活動の振り返りとプロジェクト評価　学習成果の確認と共有　後期での実施計画の検討（高校サッカーフェスティバル／タイとの交流イベントの本格実施）　個人の成長と貢献に関するリフレクション　課題：夏季休暇中の準備作業の確認
準備学習 時間外学習	本授業はプロジェクトベース学習（PBL）形式で実施 グループワークと個人ワークを適宜組み合わせて実施 実際のフィールドワークを重視するため、授業外の活動も評価対象 最終プレゼンテーションには外部審査員（投資家、起業家等）を招聘予定
評価方法	授業参加度・ディスカッション貢献度：20% 中間レポート：20% グループワーク・フィールドワーク：30% 最終プレゼンテーション・ビジネスプラン：30%
受講生へのメッセージ	本ゼミでは理論より実践を重視し、スポーツビジネスの現場で必要なスキルを実際のプロジェクトを通して身につけます。失敗を恐れず挑戦する姿勢と、チームで協力して目標達成する意欲のある学生を歓迎します。共に考え、行動し、スポーツビジネスの未来を創造しましょう。

【使用教科書・教材・参考書】

主要教材：金崎裕一郎「スポーツの産業化と持続可能な地域作り」（修士論文）
講義ごとに資料を配布

2025年度 授業概要

学 科 ：スポーツマネジメントテクノロジー科

科目名（英）	起業論 Entrepreneurship Theory	必修選択	選択必修	年次	4	担当教員	金崎 裕一郎
						実務経験	
		授業形態	講義演習	総時間（単位）	30 2	開講区分	前期
コース	コース共通					曜日・時限	月曜日2限

【授業の学習内容】（※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する）

本授業では、スポーツビジネス分野における起業家精神（アントレプレナーシップ）の基本概念と実践的知識を学びます。スポーツ関連のスタートアップ企業を立ち上げた実務経験を持つ教員が、理論と実践を組み合わせた授業を展開します。スポーツ産業の現状分析から市場機会の発見、アイデア創出、ビジネスモデルの構築、マーケティング戦略、財務計画、プレゼンテーションまでの一連のプロセスを学びます。授業では、グループワークやディスカッション、ケーススタディ分析、ビジネスプラン作成などの実践的な演習を多く取り入れ、将来的に自らスポーツ関連事業を立ち上げる、または既存組織内で新規事業を推進できる人材の育成を目指します。

【到達目標】

1.スポーツビジネスにおける起業家精神の重要性と基本概念を理解できる
2.スポーツ産業の現状と課題を分析し、新たなビジネスチャンスを見出すことができる
3.実現可能なスポーツビジネスのアイデアを創出し、評価することができる
4.ビジネスモデルキャンバスを活用し、独自のビジネスモデルを構築できる
5.基本的な財務計画やマーケティング戦略を立案することができる
6.チームで協働し、効果的なプレゼンテーションを通じて自身のビジネスアイデアを説得力をもって伝えることができる

授業計画・内容	
1回目	起業の科学入門 - 再現性ある方法論としての起業　授業ガイダンスとシラバス説明　『入門 起業の科学』の概要と本授業の進め方　起業に対する従来の誤解と科学的アプローチの必要性スポーツビジネス領域における起業の現状と可能性　ワーク：自己紹介と起業に対するイメージの共有
2回目	エフェクチュエーション理論 - 手段から目的を創造する起業プロセス、予測的vs創発的アプローチ、サラス・サラスバシーの研究と5つの原則（鳥手の原則、許容可能な損失の原則、クレイジーキルトの原則、レモネードの原則、パイロットinザプレーンの原則、スポーツビジネスにおけるエフェクチュエーション事例分析ワーク：自分が持つ手段の棚卸し
3回目	リーンスタートアップ概論 - 仮説検証型ビジネス構築法　リーンスタートアップの基本概念と構造　構築→計測→学習のフィードバックループ　スポーツスタートアップにおけるリーンスタートアップ適用事例　失敗を前提とした実験的アプローチの価値　ワーク：スポーツビジネスのアイデア発想とリーンキャンバス初期作成
4回目	顧客開発モデル - 問題と解決策の検証　スティーブ・ブランクの顧客開発手法　問題仮説と顧客セグメントの特定　スポーツビジネスにおける「痛みの強い問題」の探索　初期顧客（アーリーアダプター）の特定方法　ワーク：ターゲット顧客への問題インタビュー計画立案
5回目	ビジネスモデルキャンバス - 価値提案と収益構造の設計　ビジネスモデルキャンバスの9つの構成要素　価値提案キャンバスとカスタマープロファイル　スポーツビジネス特有のビジネスモデルパターン分析　収益モデルとコスト構造の検討　ワーク：自分のスポーツビジネスアイデアのモデルキャンバス作成
6回目	MVP（最小実行可能製品）開発 - 仮説検証のための実験設計　MVPの定義と目的　様々なタイプのMVP（コンシェルジュMVP、ランディングページMVP等）　スポーツビジネスにおけるMVP事例分析　検証すべき仮説の優先順位付け　ワーク：自分のビジネスアイデアに適したMVPの設
7回目	フィールドワーク - 顧客インタビューとMVP検証　顧客インタビューの実施方法と注意点　仮説検証の為のフィールドワーク設計　データ収集と分析の基本テクニック　ピボット（方向転換）の判断基準　ワーク：フィールド調査レポート発表と相互フィードバック
8回目	プロダクト・マーケット・フィット - 顧客に刺さる価値の発見　プロダクト・マーケット・フィットの概念と重要性　フィットを測定する方法（40%ルール、NPS等）　スポーツ市場における成功事例分析　MVP検証からの学びを製品開発に活かす方法　ワーク：これまでの検証結果を基にしたビジネスモデルの再構築
9回目	スケーラブルなビジネスモデル - 成長と拡大の設計　スケーラビリティの概念と重要性　スポーツビジネスにおける規模の経済とネットワーク効果　成長エンジンの種類（粘着型、ウイルス型、支出型）　ユニットエコノミクスと収益モデルの最適化　ワーク：自分のビジネスモデルのスケーラビリティ検証
10回目	起業チームの科学 - 成功確率を高めるチーム構成　起業チームの成功要因に関する研究　補完的スキルセットの重要性　チームダイナミクスと意思決定プロセス　スポーツビジネス起業に適したチーム構成の検討　ワーク：理想的な共同創業者プロファイル作成
11回目	資金調達の科学 - 資金源と調達戦略　ブートストラップ、エンジェル、VC、クラウドファンディングの特徴　資金調達のタイミングと調達額の決定方法　スポーツビジネス特有の資金調達チャネル（スポーツ関連助成金等）　バリュエーションの基本と投資条件　ワーク：資金計画と調達戦略の立案
12回目	ピッチデッキ作成 - 投資家を動かすストーリーテリング　効果的なピッチデッキの構成要素　投資家心理とストーリーテリングの科学　数字と定性的価値のバランス　先行研究・実績の効果的な提示方法　ワーク：自分のビジネスアイデアのピッチデッキ初稿作成
13回目	成長の科学 - マーケティングと顧客獲得　顧客獲得コスト（CAC）と顧客生涯価値（LTV）　グロースハッキングの基本戦略　スポーツビジネスにおけるマーケティングチャネル効率分析　顧客獲得プロセスのファネル設計　ワーク：マーケティング戦略の立案と収益予測
14回目	スポーツ起業家精神の実践 - ゲストスピーカーセッション　スポーツビジネス分野の実際の起業家を招いたパネルディスカッション　理論と実践のギャップの検証起業家からの直接的なフィードバック獲得　ネットワーク構築の機会　ワーク：ゲストへの質問準備と学びの整理
15回目	最終プレゼンテーションと振り返り　各自のスポーツビジネス起業計画の最終プレゼンテーション　相互評価とフィードバック　起業の科学アプローチの総括　次のステップとリソースの共有　授業の振り返りとまとめ
準備学習 時間外学習	本授業はプロジェクトベース学習（PBL）形式で実施 グループワークと個人ワークを適宜組み合わせて実施 実際のフィールドワークを重視するため、授業外の活動も評価対象 最終プレゼンテーションには外部審査員（投資家、起業家等）を招聘予定
評価方法	・授業参加度と貢献度：20% ・課題提出：30% ・中間レポート：20% ・最終ビジネスプランと発表：30%
受講生へのメッセージ	アントレプレナーシップとは単に起業することだけでなく、新しい価値を創造し、実現していく姿勢や能力のことです。 この授業では、スポーツビジネスにおける新たな可能性を探求し、自らのアイデアを形にしていくプロセスを学びます。失敗を恐れず、積極的にチャレンジする姿勢を大切にしてください。グループワークを通じて多様な視点を学び、実践的なビジネススキルを身につけましょう。授業で学んだことは、起業だけでなく、就職後のキャリアにおいても必ず役立つものです。共に新しいスポーツビジネスの未来を創っていきましょう。

【使用教科書・教材・参考書】

主要テキスト：『入門 起業の科学』田所雅之著（日経BP社）